應援警察官旅費其の一（縣費）

應援廳府縣別	支給人員	概算支拂額	追給額	計
警視廳	一、一三一	四八、二八七、四四〇円	一五、五三五、七八〇円	六三、八二三、二二〇円
神奈川縣	四〇二	七、四一〇、〇〇〇	八、〇四五、六四〇	一五、四五五、六四〇
愛知縣	五三五	一〇、六六〇、〇〇〇	五、八五四、四八〇	一六、五一四、四八〇
大阪府	五〇	一、八九六、五八〇	五一、〇〇〇	一、九四七、五八〇
計	二、一一八	六八、二五四、〇二〇	二九、四八六、九〇〇	九七、七四〇、九二〇

備考　追給額には曩に概算支拂を爲さず直ちに精算したる者をも包含す

應援警察官旅費其の二（國費）

應援廳府縣別	支給人員	概算支拂額	追給額	計
警視廳	一〇	六二六、〇〇〇円	三〇八、二八〇円	九三四、三二〇円
神奈川縣	二	五〇、〇〇〇	一〇八、二八〇	一五八、二八〇
愛知縣	三	—	三〇〇、七九〇	三〇〇、七九〇
計	一五	六七六、〇〇〇	七一七、三九〇	一、三九三、三九〇

備考　警視廳の人員十名の中には單に引率の警部二名を含む

本縣警察官旅費其の一（縣費）

種別	金額
沿道警衛	二三、九二九、五二〇円
御道筋及鐵道線路踏査	九八〇、三〇〇円
火藥類其他取締	一、〇八六、八二〇
要視察人尾行	三、三一九、六三〇
鮮人取締	二二四、〇二〇
事務打合其他	六九八、九四〇
自動車交通整理	五二〇、五六〇
盜難防止其他	一、〇八八、八五〇
停車場取締	九四八、九九〇
移動警察	一、七四〇、八六〇
特高主任會議	一三五、八二〇
勅使警衛	一〇八、六五〇
特設隊警戒	七、四三一、八五〇
寫眞撮影、其他高等事務	一、二八七、二七〇
計	四三、五〇二、〇八〇

本縣警察官旅費其の二（國費）

種別	金額
汽車沿道及御道筋實地踏査	九六二、八九〇円
火藥類取締及高等事務	三五〇、三五〇
車輛及交通事務	二七六、五七〇
御視察工場視察及衛生關係	三八六、三三〇
警察官宿舍及輸送關係	二六九、一二〇
署長會議及打合登廳	六一七、四八〇円
行幸沿道御警衛	一、二八九、九七〇
御召列車內御警衛	一九八、八五〇
上京其の他縣外打合	九七五、一六〇
計	五、三二六、七二〇

第三節　慰勞手當

(一)　縣費

慰勞手當は警察賞與として豫算金五千八百貳拾六圓、卽ち警部補一名參圓とし百七名分、巡査部長貳圓二百三十五名、

巡査貳圓二千四百八十七名、雇壹圓五拾錢二十一名、工手壹圓五拾錢十九名分を計上したるも實際は豫算計上人員よりも多數の應援を得たると計上金額は從來の他府縣の例に徴し餘りに小額なるの關係上剩餘を生じたる旅費より金壹千九百貳拾壹圓及經常部旅費貳千九百四拾壹圓、計金四千八百六拾貳圓を流用し其の勤務日數により異なるも最高警部補一名拾圓、巡査部長五圓、巡査及工手雇參圓とし總額金壹萬六百七拾八圓を給與せり。其の支給内容を記すれば左の如し。

慰勞手當支給人員及金額（縣費）

府縣別	警部補 人員	警部補 金額	巡査部長 人員	巡査部長 金額	巡査 人員	巡査 金額	工手、雇 人員	工手、雇 金額	計 人員	計 金額
靜岡縣	五六	五六〇円	一五四	七七〇円	九六六	二、七九八円	四〇	一二〇円	一、二七六	四、三八円
警視廳	三八	三八〇	三五	一七五	九六八	二、六七二	—	—	一、二三一	三、二五七
神奈川縣	一三	一三〇	一四	七〇	三四五	八九一	—	—	一四〇一	一、一八〇
愛知縣	一七	一三六	一九	九五	四五七	一、一九一	—	—	一、五九三	一、七九六
大阪府	一	八	七	三八	四二	一〇五	—	—	五〇	一四一
計	一二五	一、一一〇	三九	一、八〇一	二、七三八	七、六二七	四〇	一二〇	三、二五一	一〇、六七九

(二)　國費

警視警部に對する慰勞手當としては更に豫算の配當を受けざるも幸ひ内國旅費に於て剩餘を生じたると雜給雜費に增額を得たるを以て警視には參拾圓、警部には貳拾圓宛を支給せり。其の額千百五拾五圓にして内容左記の通り。

慰勞手當支給人員及金額（國費）

府縣別	警視 人員	警視 金額	警部 人員	警部 金額	計 人員	計 金額
靜岡縣	五	一五〇円	三五	七五五円	四〇	九〇五円
警視廳	—	—	八	一六〇	八	一六〇
神奈川縣	—	—	一〇	三〇	一〇	三〇
愛知縣	—	—	三	六〇	三	六〇
計	五	一五〇	四八	一、〇〇五	五三	一、一五五

第四節　補助員手當

消防組員たる補助員は主として市内を除きたる御道筋及鐵道沿線警戒に當り其の勤務に關しては警察官の指示に俟つこと勿論にして警察官二名に對し一名の割合にて配置せり。之等補助員に對しては從來一回壹圓五拾錢又は壹圓若は七拾錢等の手當を支給し來りたるも今回は相當多數に昇れるため一回四拾錢を給與すべく豫算一萬四千三百名とし金五千七百貳拾圓を計上せり。然るに市内の配置は之を省きたる爲め實際八千百七十六名を使用し剩餘を生じたるを以て一名五拾錢と し金四千八拾八圓を支給せり。其の使用月日及人員等詳細左記の通り。

補助員明細表

署別＼月日	五月二十八日	五月二十九日	五月三十日	五月三十一日	六月一日	六月二日	六月三日	計
下田	—	—	—	—	一六	—	—	一六
三島	—	—	—	—	—	一、一〇〇	—	一、一〇〇

大仁	—	—	—	—	一〇七	六六七	—	七七四
沼津	一四三	—	—	—	六七	一五九	一一六	四八五
御殿場	八四	—	—	—	—	—	八四	一六八
清水	一三二	九〇	—	—	一三二	—	—	三五四
靜岡	六〇	六〇	五六	—	八五	—	—	二六一
藤枝	—	—	六七七	—	二五〇	—	—	九二七
島田	—	—	二一二	—	四三	—	—	二五五
川崎	—	—	六二	—	—	—	—	六二
金谷	—	—	二八三	—	二五	—	—	三〇八
掛川	—	—	四三二	—	五四	—	—	四八六
堀之内	—	—	八六	—	四〇	—	—	一二六
見付	—	—	六九一	—	九〇	—	—	七八一
濱松	—	—	二三四	六〇〇	四六五	—	—	一、二九九
新居	—	—	—	—	一三三	—	—	一三三
氣賀	—	—	—	—	五一九	—	—	五一九
計	五三九	一五〇	二、七三三	六〇〇	二、〇二八	八二六	一、三〇〇	八、一七六

第五節　船車雇上

（一）自動車

警察部自動車の備付臺數を見るに縣費としては乘用車二臺、試驗用貸付車二臺、其の他國費にて衛生課及健康保險課に各一臺計六臺を有するもパッカード及ハドソン號各一輛を除くの外は何れも劣等車にして到底先驅用に使用するの不可なるは勿論、列外鹵簿にも堵列する能はざるの狀況に顧み新規購入を計畫し國費、縣費共豫算の要求を爲したるも不幸削除せられたるを以て民家より雇上を爲すの外途なきを察し特に先驅雇上料として貳千圓の國費配付を稟請したるに對し漸く壹千圓の配付を受けたり。

殊に今回は御巡幸地殆ど縣下全般に亙り鹵簿の編成一日數回に及び從つて警察官及先後驅用自動車の轉換配置に最も苦心せるは想像に難からざる所なり。元より先後驅自動車の配置は雇上數を增すに於ては左迄困難ならざるべきも警察官の移動配置に至りては數に制限あるを以て自動車をして輸送するにあらざれば短時間に之が配置を爲すべきの途なき勢ひ此の場合豫算等を考慮するの隙なく貨物自動車或は乘合自動車を雇上げ辛ふじて配置を爲せり。

尙御立寄所等に於ける列外自動車の位置竝に整理の必要上自動車を雇上げ豫め練習を爲さしめ其の他行幸期日切迫に伴ひ事務益〻繁劇となり自動車の用途多く且つ警衛部に警務、情報、保安、衛生等の係を設け特別の組織の下に活動を開始し以て事務の敏活を期する上に於て行幸二、三日前より特に各係に於て常時二、三輛の專用雇上をなしたる等豫想外の雇上を爲したるため之が雇上料六千餘圓の多額に達せり。之を豫算參千參百六拾四圓（縣費國費共）に比すれば殆んど半額にも足らざる狀況なるを以て貨物自動車に對しては通信運搬費より壹千餘圓の支拂を爲したるも尙貳千餘圓の不足を生ぜり。然れ共縣費にては他に流用するの途なく已むを得ず國費の流用及增額を得辛ふじて支拂を爲すに至れり。試に自動車雇上者の數を見るに實に百有餘人の多きに昇り是等自動車雇上料は普通料金より二割乃至三割餘の低廉を以て之を傭上げたるものなり。而して自動車雇上臺數及賃金左記の通り。

雇上臺數　　四百五十五臺

雇上賃金　　金五千五百五圓貳拾貳錢

(二)　サイドカー

サイドカーは警察部二臺、各署六臺計八臺を有するも先後驅用に充つるときは他に使用するの餘裕なきを以て之又新規購入を計畫したるも豫算削除の已むなきに至り左記の通り安藤清外三名より行幸期間中運轉手付四臺を雇上げ情報其の他に使用し事務の敏活を圖れり。

サイドカーは簡便なる爲め殆んど晝夜の別なく使用せる關係上破損する事頗る多く殊に先驅として使用するものにありては最も完全なるを要するを以て樞要の場所等には技術優秀なる靜岡市渡邊自轉車店主を常時連行し以て卽時修繕を爲さしめ使用上些の支障なきを期せり。

雇上期間	臺數	金額（円）
自五月二十八日至六月三日	一	一七五、〇〇〇
自五月二十八日至六月三日	一	二〇〇、〇〇〇
自五月二十六日至六月三日	一	一六〇、〇〇〇
自五月二十日至六月三日	一	一一二、〇〇〇
計	四	六四七、〇〇〇

雇上人住所氏名
靜岡市　福永一郎
同　磯田溝重
同　小山宗一
豐橋市　安藤清

(三)　船舶

御警衛の完全を期する爲め御巡幸の際左記湖上及海上に船舶十五隻を金九拾貳圓七拾錢にて雇上げ巡査一名及消防組員二名を乘船せしめ以て萬遺憾なきを期せり。

濱名湖上警備

月日	警備區間	船種	噸數	船隻	備考
六月一日	自辨天島至養鷄場	發動機	五	二	濱松署管內
六月一日	自鷲津至佐久米	同	六	三	新居署管內
				三	氣賀署管內

海上警備

月日	警備區間	船種	噸數	船隻	備考
六月二日	自沼津御用邸裏至重須	發動機	二〇六	三	沼津署管內
				二	三島署管內
五月廿八日	清水港	モーターボート	—	二	清水水上署管內
計				一五	

尙以上の外清水灣及內浦灣沖には清水々上署備付美保丸を特に配置し一般警備に任ぜしめたり。

第六節　諸傭人

警察官配置圖は鐵道線路のみは調製しあるも御道筋の配置圖は新に調製の要あり警察官をして實地踏査せしめ參謀本部圖面を參照し作製せしめたるも其の區域頗る廣汎に亙り短期間に於ては警察官のみにては調製の見込覺束なきを以て之が調製の爲め靑島淳外四人延十七人の技術員を一日七圓の料金を以て雇上げ尙交通に關する指導標、制札、標札建植の爲め人夫四十人、警衛本部用小使十二人、靜岡御用邸十人、濱松行在所十人、其の他雜用二十八人、計百十人を雇上げ使用せり。

第七節　警衛本部及休憩所

御用邸專務員の休憩所は靜岡にありては警察署を之に充てたるも濱松及沼津は何れも警察署を距ること遠く已むを得ず濱松に於ては飛行聯隊前の民家二戸、沼津に於ては學習院水泳部を借用し、尙沼津濱松には警衛本部事務所として宿舍を之に充て其の他移動警察官の爲め發着驛たる靜岡、豐橋、國府津の三個所に休憩所を設け乘務列車の待合中充分の靜養を爲さしめ以て職務執行に際し支障なからしめたり其の借上個所左記の通り。

場所	期間	金額	用途	貸主氏名
濱松飛行隊前	自五月二十九日至六月一日	二〇、〇〇〇圓	行在所御警衛員休憩所	井田きん
同	同	四〇、〇〇〇	同	小笠原庄次郎
靜岡驛前	自五月十三日至六月三日	一五、〇〇〇	移動警察官休憩所	長野作一郎
國府津驛前	同	二〇、〇〇〇	同	西山德太郎
豐橋驛前	同	二二、〇〇〇	同	横田初次郎
濱松市芙蓉館	自五月二十九日至六月一日	—	警衛本部	渡邊あい
沼津市大富館	自六月一日至六月三日	三〇、〇〇〇	同	大橋平治

備考　芙蓉館に於ける借上料は内務部に於て支拂たり。

警衛警察官名簿

警衛本部

警衛部長　書記官　中村恒三郎

本部附(兼)地方警視　町村金五

〃　地方警視　安田穰

〃　警部　矢崎卯作

〃　警部　井上康義

〃　警部補　石垣彦太郎

〃　警部補　鈴木藤次郎

〃　警部補　岡谷虎藏

警務係

警務係長　警視　町村金五

庶務係　警部　矢崎卯作

巡査部長　芹澤由太郎

巡査　山本高久

宿舍及給與係　屬兼警部　高橋春一

〃　本杉萬平

警部補　佐藤泰平

巡査部長　古川彦太郎

〃　足羽源治

〃　田中勝次郎

〃　山下仲三郎

〃　高橋宗助

〃　佐野源件

〃　鈴木嘉一

〃　千々輪益

巡査　小島嘉一

〃　水越平三郎

〃　大場好雄

〃　竹内高次

〃　根本政雄

〃　牧野千太郎

〃　山村辰雄

〃　河合巖

運輸係

警部　井上康義

行幸警衛記錄

警部補　鈴木重司
〃　岡谷虎藏
巡査部長　岡本道憲
〃　小島七郎平
〃　鈴木銀藏
〃　高林益永
巡査　稻葉重政
輸送係　警部補　石垣彥太郎
〃　袴田猪登平
〃（兼）　佐藤泰平
〃　白瀧善吉
技手　長谷川清吉
（兼）巡査部長　沖本虎吉
警備係　警部補　青木久作
巡査部長　杉浦祐
電話係　技手　久保田菊治郎
〃　勝見春吉
巡査　梅原豐太郎
〃　成岡喜助

情報係

係長　警視　安田穰
副係長　警部　鈴木準
庶務　警部　疋田惣藏
巡査部長　久保素六
巡査　田村忠一
思想　警部補　大城菊司
巡査部長　大塚才知
巡査　增田裏
內鮮　警部補　榛葉博司
巡査部長　河野吉長
外事（兼）　警部補　榛葉博司
移動　警部　山下光平
警部補　松下健作
巡査部長　德田德次郎
〃　稻葉兵藏
巡査　西尾政一
〃　小笠原德
〃　片桐統一
〃　齋藤一男
捜査　警部補　增田銀治

防犯　警部補　松下健作
巡査部長　田崎彌三郎
〃　半田京平
〃　眞瀨庄作
宿舍　巡査部長　後藤源作
〃　石川代作
〃　鈴木才一郎
〃　小林榮太郎
〃　山本政治
〃　大橋佐一
〃　小泉一郎
〃　平野龜藏
巡査　渡邊幸治
〃　飯田東司
〃　影島義治

通信係

係長　警部　田代榮藏
屬（兼警部）　藤田春馬
警部補　鈴木藤次郎
巡査部長　臼井龍太郎

警衛員名簿

村越彰作
〃　金原甚作
〃　鈴木銀藏
〃　飯塚定次郎
〃　山崎平吉
〃　森下文一
〃　仲安弘
巡査　鈴木末男
〃　村山政利
〃　藤浪仁吾
〃　高田垣
〃　鈴村篤太郎
〃　嶺崎壽作

保安係

係長　保安課長　警部　小澤正理
（兼務）副係長　工場課長　事務官　上山顯
庶務班　屬（兼警部）　八田健次
巡査　伊藤壽雄
雇　加藤郁夫

鹵簿列外ノ車輛整理班
警部　山內篤郎

(兼) 警部補 梶　文芳
(兼) 〃 渥美賢三
技手 大和田千代治
建築技手 山越五部
警察技手 市川劒治平
〃 大石要一
(兼) 〃 田口信一
(兼) 警察技師 今野義司
巡査部長 八木長一
〃 石崎廣次
(兼) 〃 大塚喜作
(兼) 〃 井坂兵藏
巡査 佐野藤吉
〃 堀田武一
(兼) 技手 林　榮吉
(〃) 〃 高橋文雄

銃砲火薬類其ノ他取締班 技手兼警部長 谷川清吉
技手 森　志郎
巡査部長 石黑泰謙
巡査 鎌田金藏

瓦斯電氣取締班 警察技師 坂本信憲
技手 鈴木義枝

消防班 警部補 大石　覺
巡査部長 望月靖彥
書記 山口惣作

公安班 警部補 梶　文芳
巡査部長 井坂兵藏
(兼) 〃 沖本虎吉
技手 林　榮吉
〃 高橋文雄

交通班 警部補 渥美賢三
巡査部長 大塚喜作
巡査 堀田武一

工場班 工場課長事務官 上山　顯
警察技師 今野義司
技手 茌原淳平
〃 川野俊三郎
〃 田口信一
〃 齋藤久吉
巡査部長 沖本虎吉

衛生係

衛生係長 衛生技師 緑川門彌
同副係長 地方事務官 三井正雄
庶務係 衛生主事 鈴木惣五郎
屬 藤田正雄
防疫監吏 佐々士喜作
〃 西園美義
巡査部長 藤枝喜一
巡査 宮崎武雄
(兼) 衛生技師 石黑仁助
(〃) 衛生技手 竹内文人
(〃) 〃 金谷國太郎
(〃) 〃 永尾周三
(〃) 〃 木臼三郎
(〃) 技手 杉浦治雄
(〃) 〃 佐野幸雄
(〃) 衛生技師 森田幸三郎
(〃) 〃 神谷浩三
(〃) 〃 石橋　健

防疫係 防疫醫 龜田　郁
警部補 足立藤市
防疫醫 森谷金吾
衛生技師 村田四郎
〃 石橋　健
〃 森田幸三郎
〃 神谷浩三
衛生技手 伊東　清
防疫醫 堀角正夫
防疫監吏 太田定男
衛生技手 横山茂理江
屬 足立奥美
防疫監吏 村松武雄
〃 石川德市
〃 佐藤廣太
〃 松浦峯作
巡査部長 山本知夫
衛生助手 桐澤長四郎

保健係 衛生技師 内山重樹
屬 杉本啓三
(兼) 衛生技師 内山重樹

（〃）〃　村田四郎
（〃）〃　森谷金吾
（〃）〃　神谷浩三
（〃）〃　石橋健
（〃）衛生技手　伊東清
防疫監吏　今泉幸平
（兼）衛生技師　石黒仁助
（〃）技手　杉浦治雄
（〃）〃　佐野幸雄
（〃）衛生技手　横山茂理江
（〃）〃　永尾周三
（〃）〃　本臼三郎
警部補　加藤藤五郎
衛生主事補　池谷忠太郎

直接警衛隊（六月一日ノ警衛配置ニヨリ作製）

濱松大隊

大隊長　警視　望月秀作（濱松署長）
隊附　警部補　掛野政則（靜岡）
第一中隊長　警部　藤原藤吉（〃）
第一小隊長　警部補　長吉川尙（〃）

防疫監吏　杉本寅吉
巡査部長　稻葉鍬三
救護係（兼）衛生技師　村田四郎
（兼）警部補　加藤藤五郎
衛生主事補　堀越延太郎
〃　望月平雄
（兼）巡査部長　藤枝喜一
（〃）衛生技師　森田幸三郎
（〃）〃　神谷浩三
（〃）〃　石橋健
衛生助手　山本半兵衛
〃　伊東長衛
（兼）衛生技手　伊東清

第一分隊長　巡査部長　谷澤市太郎（〃）
隊員　九名
第二分隊長　巡査部長　佐野高雄（〃）
隊員　九名
第三分隊長　巡査部長　伊藤豐吉（〃）
隊員　九名
第二小隊長　警部補　大川良一（〃）
第四分隊長　巡査部長　水野繁重（〃）
隊員　九名
第五分隊長　巡査部長　杉山音次郎（〃）
隊員　九名
第六分隊長　巡査部長　山本一二（〃）
隊員　九名
第二中隊長　警部　藤浪宗一（愛知）
隊附　警部補　足立藤市（靜岡）
第三小隊長　警部補　小杉和太郎（〃）
第七分隊長　巡査部長　石川新作（〃）
隊員　九名
第八分隊長　巡査部長　大崎確平（〃）
隊員　九名
第九分隊長　巡査部長　石關譽重（〃）
隊員　九名
第四小隊長　警部補　片桐暑氣雄（愛知）
第十分隊長　巡査部長　森島喜三郎（〃）
隊員　九名
第十一分隊長　巡査部長　島津秋藏（〃）

隊員　九名
第十二分隊長　巡査部長　後藤高治（〃）
隊員　九名
第五小隊長　警部補　相羽鈴吉（〃）
第十三分隊長　巡査部長　大石政（〃）
隊員　九名
第十四分隊長　巡査部長　岩田藤十（〃）
隊員　九名
第十五分隊長　巡査部長　近藤動（〃）
隊員　九名
第六小隊長　警部補　淺井勝太郎（〃）
第十六分隊長　巡査部長　内田信（〃）
隊員　九名
第十七分隊長　巡査部長　竹村斧四郎（〃）
隊員　九名
第十八分隊長　巡査部長　渡邊甚平（〃）
隊員　九名
第三中隊長　警部　藥科茂七郎（靜岡）
第七小隊長　警部補　拓植末一（愛知）
第十九分隊長　巡査部長　久米梅吉（〃）

隊　員　九　名
第二十分隊長　巡査部長　浦出捨實（〃）
隊　員　九　名
第二十一分隊長　巡査部長　伊藤米三郎（〃）
隊　員　九　名
第八小隊長　警部補　安井專一（〃）
第二十二分隊長　巡査部長　谷澤直治（〃）
隊　員　九　名
第二十三分隊長　巡査部長　佐藤房太郎（〃）
隊　員　九　名
第二十四分隊長　巡査部長　安藤金六（〃）
隊　員　九　名
第九小隊長　警部補　辻野直三郎（〃）
第二十五分隊長　巡査部長　藤井三之助（〃）
隊　員　九　名
第二十六分隊長　巡査部長　伊藤信義（〃）
隊　員　九　名
第二十七分隊長　巡査部長　船戸喜一（〃）
隊　員　九　名
第四中隊長　警部　加藤俊（〃）
隊　附　巡査部長　鈴木嘉一（靜岡）
第十小隊長　警部補　白木筐一（愛知）
第二十八分隊長　巡査部長　乘富一郎（〃）
隊　員　九　名
第二十九分隊長　巡査部長　田中久留松（〃）
隊　員　九　名
第三十分隊長　巡査部長　森治三郎（〃）
隊　員　九　名
第十一小隊長　警部補　酒井金一（〃）
第三十一分隊長　巡査部長　中島高治（〃）
隊　員　九　名
第三十二分隊長　巡査部長　岡田善三郎（〃）
隊　員　九　名
第三十三分隊長　巡査部長　宮崎鐵三郎（〃）
隊　員　九　名
第十二小隊長　警部補　武内伊四郎（〃）
第三十四分隊長　巡査部長　野間石次郎（〃）
隊　員　九　名
第三十五分隊長　巡査部長　梅本兼三郎（〃）
隊　員　九　名

第三十六分隊長　巡査部長　城者喜三松（〃）
隊　員　九　名
第五中隊長　警部　部神山和市（警視廳）
隊　附　巡査部長　伊藤金作（靜岡）
第十三小隊長　警部補　谷口又市（警視廳）
第三十七分隊長　巡査部長　村田嘉幸（〃）
隊　員　九　名
第三十八分隊長　巡査部長　齋藤元晴（〃）
隊　員　九　名
第三十九分隊長　巡査部長　牧野雅一（〃）
隊　員　九　名
第十四小隊長　警部補　岩井喜通（〃）
第四十分隊長　巡査部長　田國慶三（〃）
隊　員　九　名
第四十一分隊長　巡査部長　末崎忠藏（〃）
隊　員　九　名
第四十二分隊長　巡査部長　白波瀨忠一（〃）
隊　員　九　名
第十五小隊長　警部補　井上開明（〃）
第四十三分隊長　巡査部長　宮內元春（〃）
隊　員　九　名
第四十四分隊長　巡査部長　長澤透（〃）
隊　員　九　名
第四十五分隊長　巡査部長　久保定義（〃）
隊　員　九　名
第六中隊長　警部　部三原英二（〃）
隊　附　巡査部長　阿久井忠三郎（靜岡）
第十六小隊長　警部補　重田實夫（警視廳）
第四十六分隊長　巡査部長　只基忠策（〃）
隊　員　九　名
第四十七分隊長　巡査部長　平彌市（〃）
隊　員　九　名
第四十八分隊長　巡査部長　山崎英三郎（〃）
隊　員　九　名
第十七小隊長　警部補　關根新三郎（〃）
第四十九分隊長　巡査部長　木下信（〃）
隊　員　九　名
第五十分隊長　巡査部長　羽根太武郎（〃）
隊　員　九　名
第五十一分隊長　巡査部長　鹽野定吉（〃）

隊　員　九　名

第十八小隊長　警部補　大和田忠美（〃）
第五十二分隊長　巡査部長　後藤春雄（〃）
隊　員　九　名
第五十三分隊長　巡査部長　松岡正夫（〃）
隊　員　九　名
第五十四分隊長　巡査部長　岡本善作（〃）
隊　員　九　名
第七中隊長　警部　部中田富藏（靜岡）
第十九小隊長　警部補　手倉森喜藏（警視廳）
第五十五分隊長　巡査部長　竹澤宏（〃）
隊　員　九　名
第五十六分隊長　巡査部長　野瀨明（〃）
隊　員　九　名
第五十七分隊長　巡査部長　小池隆（〃）
隊　員　九　名
第五十八分隊長　巡査部長　加藤直平（神奈川）
隊　員　九　名
第二十小隊長　警部補　坂本良（〃）
第五十九分隊長　巡査部長　岩瀨巖（〃）

隊　員　九　名
第六十分隊長　巡査部長　岡崎馬治郎（〃）
隊　員　九　名
第六十一分隊長　巡査部長　天田二郎（〃）
隊　員　九　名
第八中隊長　警部　部長田兵弋（〃）
隊　附　巡査部長　高木淺吉（靜岡）
第二十一小隊長　警部補　小田部盛三（神奈川）
第六十二分隊長　巡査部長　幡野秀雄（〃）
隊　員　九　名
第六十三分隊長　巡査部長　市川平八郎（〃）
隊　員　九　名
第六十四分隊長　巡査部長　平柳又八（〃）
隊　員　九　名
第二十二小隊長　警部補　秋澤武（〃）
第六十五分隊長　巡査部長　川村國男（〃）
隊　員　九　名
第六十六分隊長　巡査部長　石井濱太郎（〃）
隊　員　九　名
第十五中隊長　警部　部矢代廣治（警視廳）

隊　附　警部補　鈴木武男（靜岡）
第三十九小隊長　警部補　田邊源一（警視廳）
第百十六分隊長　巡査部長　小松原直行（〃）
隊　員　九　名
第百十七分隊長　巡査部長　小林卯三郎（〃）
隊　員　九　名
第百十八分隊長　巡査部長　小沼源司（〃）
隊　員　九　名
第四十小隊長　警部補　植村淺雄（〃）
第百十九分隊長　巡査部長　廣瀨英三（〃）
隊　員　九　名
第百二十分隊長　巡査部長　湯山融（〃）
隊　員　九　名
第百二十一分隊長　巡査部長　五十嵐眞正（〃）
隊　員　九　名
第四十一小隊長　警部補　古川清（〃）
第百二十二分隊長　巡査部長　增田銀二（〃）
隊　員　九　名
第百二十三分隊長　巡査部長　石毛勇司（〃）
隊　員　九　名

警衛員名簿

第百二十四分隊長　巡査部長　三島藏吉（〃）
隊　員　九　名
第七中隊長　警部（兼）　中田富藏（靜岡）
第四十二小隊長　警部補　木村幸重（〃）
第百二十五分隊長　巡査部長　榛葉春太郎（〃）
隊　員　九　名
第百二十六分隊長　巡査部長　江戸弘（警視廳）
隊　員　九　名

新居大隊

大　隊　長　警部　安間五平（新居警長）
第九中隊長　警部（兼）　安間五平
第二十三小隊長　警部補　神藤連二（靜岡）
第六十七分隊長　巡査部長　大石平六（〃）
隊　員　九　名
第六十八分隊長　巡査部長　高橋尊一（〃）
隊　員　九　名
第二十四小隊長　警部補　平野義一郎（〃）
第六十九分隊長　巡査部長　佐野祖市（〃）
隊　員　九　名
第七十分隊長　巡査部長　野田久次郎（〃）

隊　員　九　名
第七十一分隊長　巡査部長　瀧山平四郎（〃）
隊　員　九　名

氣賀大隊

大　隊　長　警　部　鈴木平六（氣賀署長）
隊　附　警　部　補　齋藤源平（靜岡）
第十中隊長　警　部　寺田源七（〃）
第二十五小隊長　警部補　内木銀一（愛知）
第七十二分隊長　巡査部長　山本石太郎（靜岡）
隊　員　九　名
第七十三分隊長　巡査部長　澁谷仙橘（愛知）
隊　員　九　名
第七十四分隊長　巡査部長　松田高次郎（〃）
隊　員　九　名
第二十六小隊長　警部補　小酒井博（〃）
第七十五分隊長　巡査部長　長谷川斧（〃）
隊　員　九　名
第七十六分隊長　巡査部長　馬場吉藏（〃）
隊　員　九　名
第七十七分隊長　巡査部長　羽田宇兵衛（〃）

隊　員　九　名
第二十七小隊長　警部補　木部松次（〃）
第七十八分隊長　巡査部長　野々山與一（〃）
隊　員　九　名
第七十九分隊長　巡査部長　寺尾正太郎（〃）
隊　員　九　名
第八十分隊長　巡査部長　海野伊平（〃）
隊　員　九　名
第十一中隊長　警　部　木村運平（靜岡）
第二十八小隊長　警部補　山口萬之丞（愛知）
第八十一分隊長　巡査部長　横地民太郎（〃）
隊　員　九　名
第八十二分隊長　巡査部長　杉浦勝男（〃）
隊　員　九　名
第八十三分隊長　巡査部長　末田孝（〃）
隊　員　九　名
第二十九小隊長　警部補　中西倉次（〃）
第八十四分隊長　巡査部長　伊藤才一（〃）
隊　員　九　名
第八十五分隊長　巡査部長　落谷兼助（〃）

隊　員　九　名
第八十六分隊長　巡査部長　林　健一（〃）
隊　員　九　名
第三十小隊長　警部補　川井甚一（〃）
第八十七分隊長　巡査部長　築山又吉（〃）
隊　員　九　名
第八十八分隊長　巡査部長　保田曉男（〃）
隊　員　九　名
第八十九分隊長　巡査部長　服部茂一郎（〃）
隊　員　九　名
第十二中隊長　警　部　淺見孫之進（靜岡）
第三十一小隊長　警部補　佐野宇作（〃）
第九十分隊長　巡査部長　古屋野正男（愛知）
隊　員　九　名
第九十一分隊長　巡査部長　中村貞治郎（靜岡）
隊　員　九　名
第九十二分隊長　巡査部長　提坂健藏（〃）
隊　員　九　名
第三十二小隊長　警部補　馬場傳藏（〃）
第九十三分隊長　巡査部長　鈴木喜一郎（〃）

隊　員　九　名
第九十四分隊長　巡査部長　小林幸平（〃）
隊　員　九　名
第九十五分隊長　巡査部長　椎名末次（〃）
隊　員　九　名
第三十三小隊長　警部補　金澤美作（警視廳）
第九十六分隊長　巡査部長　小林三次（〃）
隊　員　九　名
第九十七分隊長　巡査部長　關　廣記（〃）
隊　員　九　名
第九十八分隊長　巡査部長　向後孝一郎（〃）
隊　員　九　名
第九十九分隊長　巡査部長　橘　魁犁（〃）
隊　員　九　名
第十三中隊長　警　部　井上政一（〃）
隊　附　警部補　小倉錄郎（靜岡）
第三十四小隊長　警部補　重原新司（警視廳）
第百分隊長　巡査部長　木下武雄（〃）
隊　員　九　名
第百一分隊長　巡査部長　小島自治夫（〃）

隊　員　九　名
第百二分隊長　巡査部長　上村信亮（〃）
隊　員　九　名
第三十五小隊長　警部補　清水和助（〃）
第百三分隊長　巡査部長　田中正一（〃）
隊　員　九　名
第百四分隊長　巡査部長　鈴木保二（〃）
隊　員　九　名
第百五分隊長　巡査部長　今村平三郎（〃）
隊　員　九　名
第三十六小隊長　警部補　寺島常市（〃）
第百六分隊長　巡査部長　熊本直一（〃）
隊　員　九　名
第百七分隊長　巡査部長　丸山雄一（〃）
隊　員　九　名
第百八分隊長　巡査部長　衞藤荒鬼（〃）
隊　員　九　名
第十四中隊長　警　部　西谷才次郎（〃）
隊　附　巡査部長　寺田周平（靜　岡）
第三十七小隊長　警部補　世羅三郎（警視廳）

第百九分隊長　巡査部長　中澤幸之輔（〃）
隊　員　九　名
第百十分隊長　巡査部長　江上喜代太（〃）
隊　員　九　名
第百一分隊長　巡査部長　大迫矢七（〃）
隊　員　九　名
第百十二分隊長　巡査部長　矢野博政（〃）
隊　員　九　名
第三十八小隊長　警部補　井上惣三（〃）
第百十三分隊長　巡査部長　井上孝男（〃）
隊　員　九　名
第百十四分隊長　巡査部長　佃　一六（〃）
隊　員　九　名
第百十五分隊長　巡査部長　堀崎繁喜（〃）
隊　員　九　名

見付大隊

大　隊　長　警　部　中山儀一（見付署長）
第十六中隊長　警部（兼）　中山儀一
第四十三小隊長　警部補　横田豐四郎（警視廳）
第百二十七分隊長　巡査部長　吉田久太郎（〃）

隊　員　九　名
第百二十六分隊長　巡査部長　加藤義平（靜　岡）
隊　員　九　名
第百二十九分隊長　巡査部長　宮代喜吉（〃）
隊　員　九　名
第四十四小隊長　警部補　坂　孝義（警視廳）
第百三十分隊長　巡査部長　關　正二（〃）
隊　員　九　名
第百三十二分隊長　巡査部長　井上恒次郎（〃）
隊　員　九　名

掛川大隊

大　隊　長　警　部　廣岡龜太郎（掛川署長）
第十七中隊長　警部（兼）　廣岡龜太郎
第四十四小隊長　警部補　高尾金作（警視廳）
第百三十三分隊長　巡査部長　長沼眞二（〃）
隊　員　九　名
第百三十四分隊長　巡査部長　内田道有（〃）
隊　員　九　名
第百三十五分隊長　巡査部長　今井直之助（〃）
隊　員　九　名

堀之内大隊

大　隊　長　警　部　藥科直次（堀之内署長）
第十八中隊長　警部（兼）　藥科直次
第四十六小隊長　警部補　大竹豐後（警視廳）
第百三十五分隊長　巡査部長　吉田誠兵（〃）
隊　員　九　名
第百三十六分隊長　巡査部長　吉本勝利（〃）
隊　員　九　名
第百三十七分隊長　巡査部長　立花杢之助（〃）
隊　員　九　名

金谷大隊

大　隊　長　警　部　青木辨次（金谷署長）
第十九中隊長　警部（兼）　青木辨次
第四十七小隊長　警部補　岩崎堯（靜　岡）
第百三十八分隊長　巡査部長　多米泰信（〃）
隊　員　九　名
第百三十九分隊長　巡査部長　木村友吉（〃）
隊　員　九　名

島田大隊

大　隊　長　警　部　岡本作平（島田署長）

第二十中隊長 警部(兼) 岡本作平
第四十八小隊長 警部補 小高松助(警視廳)
第百四十分隊長 巡査部長 松本壽(〃)
隊員 九名
第百四十二分隊長 巡査部長 中島一郎(〃)
隊員 九名

藤枝大隊

大隊長 警部 大利政彦(藤枝署長)
第二十一中隊長 警部(兼) 大利政彦
第四十九小隊長 警部補 安東善萬(警視廳)
第百四十三分隊長 巡査部長 堀井德司(〃)
隊員 九名
第百四十三分隊長 巡査部長 池田兼志(〃)
隊員 九名
第百四十四分隊長 巡査部長 三輪喜代三(〃)
隊員 九名
第百四十五分隊長 巡査部長 福島吉之助(〃)
隊員 九名

靜岡大隊

大隊長 警視 三澤重義(靜岡署長)
第二十二中隊長 警視(兼) 三澤重義
第五十六小隊長 警部補 笠井秋壽(警視廳)
第百四十六分隊長 巡査部長 吉田富一(〃)
隊員 九名
第百四十七分隊長 巡査部長 城戸鶴松(〃)
隊員 九名
第百四十八分隊長 巡査部長 野田關造(〃)
隊員 九名
第五十一小隊長 警部補 金田榮一(〃)
第百四十九分隊長 巡査部長 末信切(〃)
隊員 九名
第百五十分隊長 巡査部長 横本榮治(〃)
隊員 九名
第百五十一分隊長 巡査部長 蓮實松太郎(〃)
隊員 九名
第百五十二分隊長 巡査部長 手塚富三(〃)
隊員 九名

清水大隊

大隊長 警部 小田重義(清水署長)
第二十三中隊長 警部(兼) 小田重義

第五十二小隊長 警部補 豐滿休次郎(警視廳)
第百五十三分隊長 巡査部長 溝口直實(〃)
隊員 九名
第百五十四分隊長 巡査部長 小貫貞次郎(〃)
隊員 九名
第百五十五分隊長 巡査部長 管野岩次郎(〃)
隊員 九名

吉原大隊

大隊長 警部 久保田稔(吉原署長)
第二十四中隊長 警部(兼) 久保田稔
第五十五小隊長 警部補 高橋政吉(警視廳)
第百五十六分隊長 巡査部長 矢澤五郎(〃)
隊員 九名
第百五十六分隊長 巡査部長 高橋源治(〃)
隊員 九名
第百五十四分隊長 巡査部長 賀川義太郎(〃)
隊員 九名

沼津大隊

大隊長 警視 增田金作(沼津署長)
隊 付警部補 杉浦確(靜岡)

第二十五中隊長 警部 諸井表吉(靜岡)
第五十六小隊長 警部補 宮本常熊(警視廳)
第百五十七分隊長 巡査部長 森田政一(〃)
隊員 九名
第百五十七分隊長 巡査部長 山崎常吉(〃)
隊員 九名
第百五十八分隊長 巡査部長 小河原忠雄(〃)
隊員 九名
第五十七小隊長 警部補 樋渡祐次郎(〃)
第百五十九分隊長 巡査部長 高橋義利(〃)
隊員 九名
第百六十分隊長 巡査部長 佐野牧太郎(〃)
隊員 九名
第二十六中隊長 警部 四ノ宮龜吉(靜岡)
第五十八小隊長 警部補 仲田安壽(警視廳)
第百七十分隊長 巡査部長 松本勤(〃)
隊員 九名
第百七十一分隊長 巡査部長 上幸市(〃)
隊員 九名
第百七十二分隊長 巡査部長 中尾喜又(〃)

隊　員　九　名
第五十九小隊長　警部補　船渡川金次（〃）
第百七十六分隊長　巡査部長　佐藤正巳（〃）
隊　員　九　名
第百七十四分隊長　巡査部長　佐藤忠内（〃）
隊　員　九　名
第百七十五分隊長　巡査部長　平島久行（〃）
隊　員　九　名
第六十小隊長　警部補　北地鎌次郎（〃）
第百七十六分隊長　巡査部長　泉福次郎（〃）
隊　員　九　名
第百七十七分隊長　巡査部長　廣場繁信（〃）
隊　員　九　名
第百七十六分隊長　巡査部長　久保定右衛門（〃）
隊　員　九　名
第二十七中隊長　警　部長澤源次郎（〃）
隊　附　警部補　大石兼太郎（靜岡）
第六十一小隊長　警部補　渡邊朝知（警視廳）
第百七十九分隊長　巡査部長　石井敏雄（〃）
隊　員　九　名

第百八十分隊長　巡査部長　山田象藏（〃）
隊　員　九　名
第百八十二分隊長　巡査部長　寺島治夫（〃）
隊　員　九　名
第六十二小隊長　警部補　橋本幸之助（〃）
第百八十三分隊長　巡査部長　增留孫左衛門（〃）
隊　員　九　名
第百八十五分隊長　巡査部長　上田嘉六（〃）
隊　員　九　名
第百八十四分隊長　巡査部長　白石重右衛門（〃）
隊　員　九　名
第六十三小隊長　警部補　緒方竹次郎（〃）
第百八十五分隊長　巡査部長　草野豐（〃）
隊　員　九　名
第百八十六分隊長　巡査部長　阿南喜好（〃）
隊　員　九　名
第百八十四分隊長　巡査部長　遠藤武夫（〃）
隊　員　九　名
第二十八中隊長　警　部脇園庄次郎（〃）
隊　附　警部補　十八公　三千丈（靜岡）

第六十四小隊長　警部補　政治（神奈川）
第百八十六分隊長　巡査部長　安部榮助（〃）
隊　名　九　名
第百八十九分隊長　巡査部長　中西利重（〃）
隊　員　九　名
第百九十分隊長　巡査部長　鈴木壽松（〃）
隊　員　九　名
第六十五小隊長　警部補　加藤善治（〃）
第百九十二分隊長　巡査部長　小野木視吉（〃）
隊　員　九　名
第百九十三分隊長　巡査部長　石河昇（〃）
隊　員　九　名
第百九十四分隊長　巡査部長　齋藤廣吉（〃）
隊　員　九　名
第六十六小隊長　警部補　田邊光次（〃）
第百九十四分隊長　巡査部長　山口幸次郎（〃）
隊　員　九　名
第百九十五分隊長　巡査部長　田鍋兵作（〃）
隊　員　九　名
第百九十六分隊長　巡査部長　諏塚藤太郎（〃）

隊　員　九　名
第百九十七分隊長　巡査部長　矢部義壽（〃）
隊　員　九　名
第二十九中隊長　警　部山崎清作（靜岡）
第六十七小隊長　警部補（兼）杉浦確（〃）
第百九十八分隊長　巡査部長　萩田莊太郎（〃）
隊　員　九　名
第百九十九分隊長　巡査部長　遠藤萬作（〃）
隊　員　九　名
第二百分隊長　巡査部長　坂本俊（〃）
隊　員　九　名
第六十八小隊長　警部補　富山久米次（〃）
第二百一分隊長　巡査部長　大須賀仙藏（〃）
隊　員　九　名
第二百二分隊長　巡査部長　犬塚左享（〃）
隊　員　九　名
第二百三分隊長　巡査部長　大川靜司（〃）
隊　員　九　名
第三十中隊長　警　部曾根正（神奈川）
隊　附　警部補　加藤藤五郎（靜岡）

第六十九小隊長　警部補　山口　勇（神奈川）
第二百四分隊長　巡査部長　堀内　當（〃）
隊員　九名
第二百五分隊長　巡査部長　中澤信夫（〃）
隊員　九名
第二百六分隊長　巡査部長　大下國次郎（〃）
隊員　九名
第七十小隊長　警部補　田村喜代文（〃）
第二百七分隊長　巡査部長　小島重德（〃）
隊員　九名
第二百八分隊長　巡査部長　竹中權市（〃）
隊員　九名
第二百九分隊長　巡査部長　栗田丑次郎（〃）
隊員　九名
第七十一小隊長　警部補　上ノ瀨喜藏（〃）
第二百十分隊長　巡査部長　喜多村平一（〃）
隊員　九名
第二百十二分隊長　巡査部長　半澤金藏（〃）
隊員　九名
第二百十三分隊長　巡査部長　濱岸榮藏（〃）

隊員　九名
第三十一中隊長　警部補　林　辰己（靜岡）
第七十二小隊長　警部補　水野末次（神奈川）
第二百十三分隊長　巡査部長　小堀二子雄（〃）
隊員　九名
第二百十六分隊長　巡査部長　獅子山與四郎（〃）
隊員　九名
第二百十五分隊長　巡査部長　鈴木松之助（〃）
隊員　九名
第七十三小隊長　警部補　伊東藤平（〃）
第二百十六分隊長　巡査部長　大貫牧藏（〃）
隊員　九名
第二百十七分隊長　巡査部長　安達信（〃）
隊員　九名
第二百十八分隊長　巡査部長　高橋義利（警視廳）
隊員　九名
第七十四小隊長　警部補　樋渡祐次郎（〃）
第二百十九分隊長　巡査部長　佐野牧太郎（〃）
隊員　九名
第二百二十分隊長　巡査部長　松本勤（〃）

前驅後驅及其他ノ勤務

警部　松浦政藏（靜岡）
同　竹内種作（〃）
同　安達偕市（〃）
警部補　金井善太郎（〃）
同　村串清吉（〃）
同　堀好次郎（〃）
同　松浦彌三郎（〃）
同　伊藤庄治郎（〃）
同　石田義一（〃）
同　渥美祐司（〃）
同　村松德亮（〃）
同　川島逸平（〃）
同　岩城又治郎（〃）
同　寬應水五郎（〃）
同　阿形庄吉（〃）
同　須賀了（〃）
同　内藤拼之助（〃）
同　長谷仲藏（〃）
同　土屋範吾（〃）
同　清水政一（〃）
同　永井武之（〃）

警衛員名簿

第一大隊

大隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　東二
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦隆
第六分隊長　巡査部長　西村繁
第七分隊長　巡査部長　村松一

小隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　傍島貞
第一分隊長　巡査部長　一ノ瀬六
第二分隊長　巡査部長　二川部
第三分隊長　巡査部長　三庄司
第四分隊長　巡査部長　紅谷隆之助
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次

中隊

第一傳令　一名
第一中隊長　警部　一ノ瀬
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

第二大隊

大隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　東二
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

小隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　傍島貞
第一分隊長　巡査部長　一ノ瀬六
第二分隊長　巡査部長　二川部
第三分隊長　巡査部長　三庄司
第四分隊長　巡査部長　紅谷隆之助
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次

中隊

第一傳令　一名
第一中隊長　警部　一ノ瀬
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

第一大隊

大隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　東二
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

小隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　傍島貞
第一分隊長　巡査部長　一ノ瀬六
第二分隊長　巡査部長　二川部
第三分隊長　巡査部長　三庄司
第四分隊長　巡査部長　紅谷隆之助
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次

中隊

第一傳令　一名
第一中隊長　警部　一ノ瀬
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

第二大隊

大隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　東二
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

小隊

第一傳令　一名
第一小隊長　警部補　傍島貞
第一分隊長　巡査部長　一ノ瀬六
第二分隊長　巡査部長　二川部
第三分隊長　巡査部長　三庄司
第四分隊長　巡査部長　紅谷隆之助
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

中隊

第一傳令　一名
第一中隊長　警部　一ノ瀬
第一分隊長　巡査部長　加藤六
第二分隊長　巡査部長　部島吉
第三分隊長　巡査部長　潮田甚
第四分隊長　巡査部長　田島周
第五分隊長　巡査部長　松浦義
第六分隊長　巡査部長　西村次
第七分隊長　巡査部長　村松一

隊　員　六　名
第三分隊長　巡査部長　後藤貞一（〃）
隊　員　六　名
第四分隊長　巡査部長　三木貞一（〃）
隊　員　六　名
第五分隊長　巡査部長　高橋享（〃）
隊　員　六　名
第六分隊長　巡査部長　高橋石五郎（〃）
隊　員　六　名
第七分隊長　巡査部長　太田末一（〃）
隊　員　六　名

第二大隊

大隊長（兼）警部　鈴木準（靜岡）
隊　付（〃）警部補　榛葉博司（〃）
〃　（〃）巡査部長　大塚才知（〃）
傳　令　一　名
遊動小隊長　警部補　村松彌三郎（靜岡）
隊　付　巡査部長　澁谷孝吉（警視廳）
〃　二　名
隊　員　一三名

傳　令　一　名
第一中隊長　警部　大宮盛（愛知）
傳　令　一　名
第一小隊長　警部補　淺井惣五郎（愛知）
傳　令　一　名
第一分隊長　巡査部長　村山幸一（愛知）
隊　員　六　名
第二分隊長　巡査部長　川邊重雄（警視廳）
隊　員　六　名
第三分隊長　巡査部長　山本清梧（愛知）
隊　員　六　名
第四分隊長　巡査部長　佐野鹿太郎（靜岡）
隊　員　六　名
第五分隊長　巡査部長　服部只一（愛知）
隊　員　六　名
第六分隊長　巡査部長　後藤初郎（神奈川）
隊　員　六　名
第二小隊長　警部補　清水謙一郎（警視廳）
傳　命　一　名
第一分隊長　巡査部長　前原善八郎（警視廳）
隊　員　六　名
第二分隊長　巡査部長　望月清三（靜岡）
隊　員　六　名
第三分隊長　巡査部長　松村秀輔（警視廳）
隊　員　六　名
第四分隊長　巡査部長　萩原精（靜岡）
隊　員　六　名
第五分隊長　巡査部長　渡邊直次（警視廳）
隊　員　六　名
第六分隊長　巡査部長　高村良太（神奈川）
隊　員　六　名
第二中隊長　警部　山下光平（靜岡）
傳　令　一　名
第一小隊長　警部補　松下健作（靜岡）
傳　令　一　名
第一分隊長　巡査部長　大畑幸次郎（靜岡）
隊　員　六　名
第二分隊長　巡査部長　小山平太郎（警視廳）
隊　員　六　名
第三分隊長　巡査部長　樽林牛松（靜岡）
隊　員　六　名
第四分隊長　巡査部長　犬塚圓一（愛知）
隊　員　六　名
第五分隊長　巡査部長　中村孟（警視廳）
隊　員　六　名
第六分隊長　巡査部長　川又末吉（靜岡）
隊　員　六　名
第七分隊長　巡査部長　渡邊貫一郎（愛知）
隊　員　六　名
第二小隊長　警部補　今西宏（神奈川）
傳　令　一　名
第一分隊長　巡査部長　矢部之二（神奈川）
隊　員　六　名
第二分隊長　巡査部長　大幡行廣（警視廳）
隊　員　六　名
第三分隊長　巡査部長　松本恒造（神奈川）
隊　員　六　名
第四分隊長　巡査部長　玉造盛（警視廳）
隊　員　六　名
第五分隊長　巡査部長　神山伊太郎（神奈川）
隊　員　六　名
第六分隊長　巡査部長　竹越仙次郎（靜岡）
隊　員　六　名

警衛餘錄

警衛に關する意見

警衛配置計畫に對する批判と其の長所短所に關し實際警衛に從事したる各方面に對し腹藏なき意見を求めたる處其の回答の數々を得たるが故に之れを蒐錄して參考に供する事とせり。只短所として擧げられたるもの、中宿舍の如き事前に相當考究したるも宿舍不足の爲已むを得ざるものとして計畫したる如きものあれ共今は提出ありたるまゝに掲ぐ。

◎長所と認められたる點

一、受持巡査及町村長を通じ豫め御道筋沿道住民に對し拜觀の心得を訓練し居たる爲め實際の整理に當り多大の效果ありたり。（警視廳）

一、應援中隊に靜岡縣警部補一名、各班（分隊）毎に靜岡縣巡査一名を配置せるは地理及民情に通ぜざる應援警察官にとり非常に便益多かりき。（警視廳。神奈川縣。御殿場、氣賀、大仁各警察署長）

一、警衛警察官勤務表なる小册子を各自に交付し隊員をして毎日の部隊編成、任務等を一目瞭然たらしめたるは連絡統一の保持上便宜大なるものありたり。（警視廳。御殿場警察署長）。

一、警衛配置圖を細密に作成し例へば警衛員の配置位置を圖上指示するに當り民家の氏名を調査記入しありたるは地理不案内の應援員にとりて迅速に該地點を知り得て便宜多かりき。（警視廳。神奈川縣。大仁、新居各警察署長）

一、指定横斷道路の設けありたるは警衛上便宜を得たり。（大阪府）

一、奉拜者を多數收容し得る場所に集め老幼婦女を前方に跪座せしめ其の狀況の許す限り奉拜者に便宜を與へ洽く奉拜の光榮に浴せしめられたるは適當なり。（大阪府）

一、六月一日氣賀町附近に於ける如く御通過前と雖も地形の狀況奉拜者の多寡等に依り隨時配置場所を移動せしめ以て完全なる警衛を期したるは最も機宜を得たる措置と思料せらる。（大阪府）

一、配置表に巡査部長以下の配置箇所のみを記し氏名の記入なきを以て諸種の事情を斟酌し適材適所に配置を爲し得、其の結果は良好の成績を得たるものと認めらる。（神奈川縣）

一、警部補以上をして御巡幸前に配置箇所の實地踏査を爲さしめられた事は後日隊員の配置に當り何等の懸念なく好結果を得たるものと認めらる。（神奈川縣）

一、宿舍を指定せられ到る所驛迄で案內者を出し而も懇切なる接待に預りたるは出張員一同感謝の外なかりき。（神奈川縣）

一、複雜にして時間に餘裕なき移動警衛に對し小隊を其の單位とし移動して行ふべき其の勤務地竝宿舍等圖解を以て指示せられたるは勤務者として豫期以上頗る利便を感じ遺憾なし。（濱松警察署長）

一、從來の如く制服警察官をして檢索等の內面的活動を爲さしめず專ら警衛線警戒に任ぜしめたるは心身の疲勞を避けしめ旺盛なる元氣の下に其の任を盡さしむるに大なる效果ありたり。（濱松警察署長）

一、警衛警察官の分隊單位編成は極めて適切なるものにして將來に於ても之を採用すべきものと認めらる。此の編成は分隊長たる巡査部長に對しては相當重き責任を負擔せしむる感あるも分隊員を適材適所に配置せしむる伸縮の餘裕を存し且事務の簡捷を圖り反て誤解をなからしめた事は計畫上一大特徵と稱すべし。

又之を實行したることは警察官各自の精神を緊張せしめ常識的行動竝各自の智能と判斷とを養成し自由裁量を與へた

る點等は巡査の自尊心を高め將來の警察事務心理に付ては好影響を與へたり。（沼津、森町、堀之內各警察署長）

一、部隊編成の系統的組織にして終始分隊員の分離せざるは統制上命令の傳達其の他に於て模範的計畫と認められたり（御殿場、金谷、掛川、堀之內、森町、新居、氣賀各警察署長）

一、大隊長を其の地の所轄警察署長を以て任したるは至極當を得たるしのと認められたり。（御殿場、森町各警察署長）

一、警備隊をして安寧秩序保持に務めしめ人心の動搖を防ぎたるは當を得たり。（御殿場警察署長）

一、宿料の均一を圖り宿舍表を作製したるは便宜なりき。（御殿場警察署長）

一、制服員の前夜警戒を廢し休養の途を講じたるは警衛上誠に良好の結果を得たり。（御殿場、新居警察署長）

一、警衛補助員として警察の監督下に訓練せられたる消防組員のみを使用したるは當を得たるものなりき。（島田警察署長）

◎短所と認められたる點

一、警衛部隊の編成は班（分隊）を基準とし中、小隊は殆ど每日編成替を行ひたる爲中、小隊長は其の所屬分隊員の指揮統率上不便勘からざりき。班を基準とするは計畫の周匝綿密にして理想として固より可なるも實際に部隊を運用するに當りては小隊を基準とするを可とせむ。（警視廳）

一、宿舍の割當に於ても班を基準に置きたる結果隊員中、中、小隊長と同宿せざるものあり爲に其等の監督範圍を逸脫し監督竝指示傳達上不便を感じたり。（警視廳）

一、部隊編成に當り大隊長に行幸地所轄署長を充てたるは土地不案內の應援警察官の指揮者として最も可なるも大隊長は絕へず移動し且本部には幹部級の殘留員なき爲報告連絡上不便少からざりしのみならず緊急事故の照會に際し直に確答を得ざりし實情にありたり。大隊長は行還幸警衛終了迄自己の所在を豫め示し置くを可とせむ。（警視廳）

一、奉拜團體の種別人員代表者標識章に關する通報連絡なかりしことは遺憾なり。（大阪府）

一、御通過後に於て一般奉拜者の解散の標準とすべき自動車其の他に依る標識なかりしことは不便なりき。（大阪府）

一、濱松市に於て應援警察官のみを以て廣汎なる地域の事前檢索に從事せしめられしは縣下警察官の人員上已むを得ざりしとは云へ其の地の人情風俗を剔知せず且土地不案内なる應援員をして尠なからざる努力を拂はしめ尙所期の效果を充分擧げ得ざりし憾あり。（大阪府）

一、特設隊（私服）員と制服勤務員とは自ら執務の性質を異にし監督系統を異にせる關係上相互の連絡稍困難なりし爲め兩者間意思の疎通を缺きたるやの感もありたり。（愛知縣。沼津、島田、金谷、掛川、森町、新居各警察署長）

一、御警衛從事中の取扱事故に付ては細大となく申報することは勿論なるも保護雜件程度のもの及奉拜者數若しくは注意事項其の他一般狀況を報告せしむるは將來の參考となるべきに依り報告樣式を印刷配布し終了後報告せしむるを可とす。（森町警察署長）

一、停車場配置班と列車搜査班との間に於ても之れ亦信號標章等に依り穩密裡に相互の連絡を取り以て移動警察の目的を達成すべきを規定せられありて最初の一二日間は之を實行せしめしも以後に於ては列車搜索の側に於て停車場配置班に對し何等の合圖等をなさず果して列車内に搜索班の乘車し居りしや否やを疑はしむるものありしは寔に遺憾なりき。（吉原警察署長）

一、吉原署沿道の警衛從事警察官吏は吉原大隊長たる小職を除くの外行還幸共に他府縣應援警察官吏にして之等に對しては各自に其の配置要圖を配布しありしと雖も實地に就いては自己の配置個所の不分明なりしものを見受けられたり而して小職其の監督の立場にありて配置の責任を有するは勿論なりしが沿線八哩に亘る間一人にて個別に配置を附することは當時小職の勤務割當及時間の關係上至難のことに屬したりしかば當署に於ては署殘留の白川部長富士驛事務の仲安部長をして配置せしめ以て其の萬全を期したれ共將來に於ては應援警察官吏の監督者中の幾分は其署員を充つべきが至當ならんと思惟す。（吉原警察署長）

一、新聞班の取締上に關し聊か徹底を缺きたること。（御殿場警察署長）

一、途上警衛は三時間以前に配置に就くは長きに失する嫌ひあり二時間前を相當と認めらる。（御殿場、松崎各警察署長）

警衛美談

御巡幸中連日に亘り警衛事務に盡瘁せる警察官の行動は誠に熱烈を極めたる至情の發露なりと雖も更に飜てその裏面に於ても有形無形にその大任達成に貢獻せる眞に涙ぐましき物語尠なからざりしを思はしむ。幸ひにその知り得たる美談を掲げて之等の一端を窺ふことゝせるも素よりこの他幾多の穩れたる逸話あるは想像に難からず。此處には其の顯れたる二三の事例を擧ぐるに止む。

警視廳

淺草象潟警察署勤務
警部補　岩井喜通

右岩井警部補は今回の御警衛に際し本縣に應援警察官として派遣せられ警衛勤務に服せるもその間妻女孝子は只管夫がこの重大なる任務を無事果さんことを冀ふの切なるものあり。長女淑子を伴ひ私かに住所より程近き東京市外南葛飾郡本田町なる四ッ木神社並に同町澁江の西光寺（同警部補の平素信仰する天臺宗）に詣うでゝその加護を祈願すること數回に及べり。六月二日同警部補の無恙この光榮ある重責を完ふして歸宅するや所謂「願解き」の爲めに直ちに前記二個所に參拜して喜びの中に謹んで謝意を表したり。

顧ふに如此陰に警衛勤務の遂行を衷心より援助したるは警察官の家族として或は當然なるべしと雖も最も榮譽あり而して重大なる職責を負ふ警衛勤務の第一線に立つ警察官は實に斯る家族を有してこそ甫めて其の任務を完ふし得べきものと謂ふべし。

兩國警察署勤務
巡査　野元久敏

右者警衛應援の爲め本縣に派遣を命ぜられ五月二十六日出發することゝなり居れり。然るにその當日午前四時頃より妻女チカ（當三十年）は突然激しき胃痙攣を起し殆んど人事不省に陷りたるを以て直ちに醫師を招き應急手當を施したる結果漸くにして意識は回復するに至りたるも苦痛は猶熄まず。加ふるに同巡査は夫婦のみにして他に妻を看護すべき者とて無くこれが平常ならば看護休暇を願ひ病人の看護に當る筈なれども重大なる警衛勤務に服することを目前に控へ而かもその出發間際にあり既に命令の時刻切迫するに至るや病妻チカは已れが病床に呻吟しながら夫の勤務を氣遣ひ苦しさを忍へて出發せんことを促せり。故に同巡査は隣家木村氏の妻フミに看護方を依願し急遽自宅を立ち出て漸くにして指定時刻に參集することを得一同と共に本縣に來援して完全に警衛勤務を遂行したるは洵に美擧と謂ふべし。

この出發の瞬間に於ける夫妻の心情は殊更、病床にありて夫の勤務を氣遣ひ又一方病妻の身を案じつゝ重大使命を果せるこの夫妻の心理に思ひを繞らす時實に一掬の同情を寄せざるを得んや。

戸部警察署勤務
巡査　齋藤茂志

本人は本縣下行幸警衛の爲め選拔せられ應援として出張を命ぜらるゝや當時長女カヅ子（當六年）次女ハル子（當四年）長男純一（當二年）何れも麻疹に罹り醫師の加療中なりしも殊に長男純一は病勢樂觀を許さゞる病狀なるを以て友人及近隣の人々等は萬一の場合を憂慮して出張を斷念せしむる樣勸告せるに同巡査は御警衛任務の極めて重大なるを痛感し家庭に事情あるの故を以てこの公務を等閑に附するを得ずと頑として之を聽入れず。如何なることあらむも警衛の重責を果さん

と決意し五月二十六日病兒の看護を妻に托し出發したるものなり。然るに同月二十九日に至り長男純一は化濃性腦膜炎に變じ病態惡化し遂に危篤に陷り既に餘命盡きむとし且又長女次女共に病態警戒を要するの狀況にありしも妻女は之を夫に通知するに於ては其の職務に支障を來さんことを恐れ何等の消息をも傳へざりしが同僚等は之を看過するに忍びず無斷にて齋藤巡査に通知せり。

此の驚報に接するや當時小隊長たりし霜島警部補は本縣當局にその旨を告けたり。然れども同巡査は假令愛兒の臨終に間に合はざるも警衛終了迄は歸宅せずと其の任を離るゝことを肯せざりしが上司及同僚等の切なる勸告に遂に淚を呑んで歸宅せるも翌三十日長男は永眠せるものなり。

同巡査の警衛任務に就くや職務に精進し聊かも憂色を見ず五月二十九日危篤の報を受くるまで何人も同巡査の心情を知るものなく之を聞くに至り始めて其の事情を知り實に同巡査の職務觀念の强きに感激せるものなり。此の警察官にして此の妻あり同人の妻の行爲も亦共に推賞するに値あるものと認めらる。

神奈川警察署勤務

巡査　桐生與三郎

右者曩に本縣下出張の警衛警察官の一人として命令を受くる以前より次女一枝（當一年）は病氣にて醫師に懸りて加療中の處病勢急變し出張前日なる五月二十五日午後五時遂に自宅に於て死亡せり。然るに同巡査は假令愛兒死亡したりと雖も已に出張も翌日に迫り居るを以て變更等爲さんか直ちに警衛上蹉跌を來す虞あり。斯くては自己一身上の責任に止まらざるを痛感し子供の死亡は一切嚴祕に附し葬儀は妻に委せ翌二十六日午前七時橫濱驛發列車にて來援し其の任に就くや何等憂色もなく一意專念勤務に精進し六月三日無事任務を終了歸任し玆に始めて上司に對し愛兒の死亡せるを告けたる次第にして其の責任感念の强きは全く推賞するに値あるものと認めらる。

愛知縣

右者本縣下御巡幸の警衛に際し應援警察官として出張すべく五月二十日命を受けたり。同巡査の妻女かつは姙娠中にして五月下旬分娩の模樣なるも胎兒肥滿して難澁するの虞あることを豫てより產婆の內談にて知り之を憂慮しつゝあり。殊に出張の間際にありて痛く妻の樣子を氣遣ひ沈痛の樣子なりしも妻は警察官として御警衛の大任に膺る選拔を受けたるは光榮の餘りなれば妻の身に係る私事に逡巡して夫の重大なる任務を誤まらしめんか實に妻としての本分に悖るのみならず夫の爲め延いては君國の恥辱ともなることを痛切に感じ愛を面に表はさず夫を激勵せしかば樋口巡査も妻の言葉に力百倍し後事を隣人に託して出發し無事任務を果したるは洵に美談とするに足る。

笹島警察署勤務

巡査　樋口勝海

田原警察署勤務

巡査　橫林三十郎

警衛應援警察官として本縣に出張すべき時に當り次男茂樹（當二年）は偶胃腸病に罹り剩へ妻女ことも亦病床にありしなり。然るに同巡査は重大使命の完全なる遂行を決意し妻に對してこの名譽ある御警衛勤務に服する間夫に對しては假令如何なる病狀の變事あるも斷じて之を通知し任務を誤まらしむるが如きこと勿れと懇諭して出發せり。其の後次男茂樹の病狀は別に變化を來さゞりしも妻は五月二十八日流產後經過良からず遂に起居の自由を失ふに至れり。然れども克く夫の言葉を守り御警衛の重任を果さしめたるは警察官の妻として實に模範とすべきものなり。

清水警察署（松原巡査派出所勤務）

巡査　伊海傳一

右者今回の行幸に際し要視察人其の他要注意人等の取締として所謂間接警衛の任務を命ぜられ五月二十六日以來繼續し

て思想要注意人某等二名の尾行看視に從事せり。然るに同巡査の妻女朝子はそれ以前卽ち五月二十四日より病氣の爲め臥床中なりしが偶二十七日夜半に至り急變を來し一時は殆んど人事不省に陷れり故に直ちに醫師を招き應急手當を加へ辛ふじて小康を得しと雖も猶重態にありしかば手篤き看護を要すべきは勿論なりき。然れども之に當るべき家人なかりしが故に其の間知人某に總てを依囑すると同時に其の旨妻の生家に急報して翌日實父及妹を呼び寄せ看護に從事せしめたり。此の悲しみと混雜の中に同巡査は毫も周章狼狽の態度を表はさず監視尾行の職責を缺かず專念勤務に當つてその遂行を完ふせり。

如斯榮譽ある重大勤務の本分を悟り何等この家庭の事情に捉はれて心の怯む所なく斷乎としてその使命を果せるは實に警察官として爲すべきものを爲したりとは雖も亦他の龜鑑として賞讃するに値すべし。

清水警察署（波止場巡査派出所勤務）

巡査　井村村次

右者今回の行幸に當り第三種要視察人某の尾行監視の任務を帶び五月二十六日より引續き勤務を爲したるも偶同巡査の祖母松井ゆう當七十五年は五月三十一日本籍地濃名郡北濃村高畑の實家に於て病死せり然れども實父新惠茂は御巡幸の砌にして井村巡査が重大なる職務に從事中なるを悟り若しこの事情を本人に知らしめんか或はその心情に悲しみを與へ勤務の完全なる遂行に蹉跌を生ぜしめ或は延て警衛上の支障を來すことなきにあらずと只管之を慮りて遂に全く御警衛終了を待ち乃ち六月九日に至り始めて其の通知を發したり。故に同巡査はそれまで祖母の病死を知らず全く一意專心その職責に盡瘁するを得たり。

是れ畢竟同巡査の父が完全なる職務の遂行と御警衛の萬全とを希ふ衷心よりの赤誠より出でたる行爲にして洵に隱れたる警衛美談なりとす。

警衛從事者の感想

御警衛の憶出

宮內事務官（前警務課長）　町村金五

御警衛記錄が橋爪警務課長、沖本部長等諸賢のお骨折により、近く發刊さるゝ由を承はり、息づくひまもない、あわただしい當時の憶出は、走馬燈の如く、それからそれへとつきることなく、萬感そゞろに胸を打つて、感慨うたた無量である。

警務課長の重職を汚した私が、警衛には殆ど無經驗で無能力であり、今にして思へば、計畫の杜撰缺陷は、ことごとく、私自身の責任で、まことに汗顏に堪えぬ次第である。ただ、幸にして、さしたる事故もなかつたことは、もとより御稜威の然らしむるところとは言へ、又三千有餘の警察官が身を挺して粉骨碎身の努力を吝まず果斷機宜の處置に因り、計畫の缺陷を補つていただいたためであることは謂ふまでもない。

惟ふに、靜岡縣行幸の如く、御內示の遲かつたことは、殆ど空前のことであると謂ふ。白根知事が、初めて御沙汰を拜したのが四月十四日で、鳳輦を靜岡市にお迎へしたのは、五月二十八日である。御巡幸先の略確定されたのは五月五日前後で、御道筋の最後の確定を見たのは、二週間前の五月十四、五日であつた。この短期間に、複雜な御日程につき、精密な配置計畫を完了したのであるから、當時の各係員の活動振は、死物狂と謂ふかただ〳〵息詰まるばかりの眞劍さであつた。

警衛計畫の當初に於て、最も苦心したのは、配置圖の土臺とすべき、御道筋の圖面の作成であつた。市部は千二百分の一、町部は千五百分の一乃至は三千分の一、村落部は、六千分の一と定めたのであるが、これに相當する圖面は、殆ど皆無であり、幾分あるとしても、都市計畫圖以外は、極めて不正確である。さればとて、茨城縣の大演習行幸の警衛の故智に做ひ、實地測量を行つて、正確な圖面を作成せんとするも、時日の切迫は之を全然許さぬ。依つて行幸主務官の第一回

の檢分の結果、御巡幸先が、ほゞ豫測せらるゝや、耕地課、建築課、水產課等の技術官にお願ひして、鐵路、陸路或は海路等、御道筋を各様に豫測して、陸地測量部地圖、市町村圖その他諸種の地圖から、前記の縮尺の下圖を作成し、之を殆ど晝夜兼行で、實地に就て、その誤謬の訂正を爲すと共に、際立つた目標物を記入し、直に青寫眞に撮つてもらつた。この青寫眞が出來するや、直に配置係の警部、警部補をその現場に急派し、實地の配置個所を定めて、此の青寫眞に記入せしめた。斯くて行幸主務官第二回の實地見分は五月九日頃に初まり、檢分中にも御道筋推定の情報に接するや、直に各人別の配置を、部隊編成に區分し、配置圖の完成に急いだ。配置圖原案の全部完成したのは五月十七、八日頃、之を印刷にするのが大仕事で靜岡市の印刷所ではその能力なく、井上教習所長外三名を名古屋市に急派し、確か四日四晩の强行作業で、靜岡市に持ち返つたのは、幹部の召集日の前日であつた。

警衛員の配置表の作成も亦、容易な業ではなかつた。豫算は極度に緊縮せしめられて餘裕は全然なく　一日の勤務を終つた者は、匆慌として汽車又はトラックで、翌日の勤務地に急行せねばならぬ。この轉換配置を圓滑に行ふと共に警衛員殊にその大半は地理を辨へぬ他縣の應援警察官に對し、各自の責任區域を一目瞭然、いさゝかも疑念を挾む餘地をなかしむることは、配置表の作成上、最も苦心を要したところであつた。幸にして、配置表に一點の誤脫、遺漏もなく、轉換配置にさして無理も起らなかつたことは、頭腦明晰な矢崎、山本兩君の絕大な努力の賜物であつた。

苦心談を打止めとして、最後私にとつては、憶出の深い警務係員、文字通り四十餘日を不眠不休、渾身の努力を獻げて、緣の下の力持を勤められた人達の面影を紹介することゝする。四月十四日より御巡幸まで、一日たりとも夜十二時前に歸宅せず、一切の計畫の總元締をして傀儡の如き私を遺憾なく援助された矢崎警部、豫算の作成、配置個所の實地踏査に東奔西走された佐藤警部補。途上竝に鐵道沿線の配置に幾度か徹夜を辭しなかつた眞面目そのもの、石垣警部補。二千數百の警衛員各個の勤務表の作成に精緻なる頭腦の冴を見せた岡本部長、御道筋圖面の依賴、督促、その保管に寸毫の隙も見せなかつた杉浦部長、六十餘の老齡を以て、雨中幾日となく天城街道の御道筋圖面の實測に若者を瞠若たらしめた芹澤部長。幾度か夜を徹して豫算の作成より、その經理に孜々として努めた古川部長、溫顏に笑を湛えて、五千餘圓の貧弱なる經費を以て、警察電話の使用に毫も不安を與へなかつた久保田技手。次に警務係に助勤を命ぜられた方々を俎上に載せる。

行幸警衛心得その他規定の改正に新婚の家庭を顧みなかつた法學士八田警部　難關濱松市の配置計畫を完成し、更に名古屋市に急行して配置圖の印刷の大任を果された井上教習所長、靜岡清水沼津の各市及八丁池の配置計畫に靈腕を表した鈴木刑事課長、最も厄介な宿舍計畫に痩せるまで苦勞された高橋屬。サイドカー、警備船の手配に人知れぬ苦心を嘗めた岡谷警部補。警衛員の列車輸送の計畫に非凡の手腕を發揮した鈴木重司警部補。配置表、配置圖の作成に遺漏なき努力を拂はれた袴田警部補。御料自動車の警護、勅使、顯官の警衛に奮闘せられた青木警部補。警衛員の自動車輸送に見事な腕前を發揮し、轉換配置計畫に遺算を生ぜしめなかつた沖本部長。斯く數へ來れば、警務係の各位、その擔當する職務に就き、一人殘らず、超人的な活動を遂げられたのであつて、その功績は燦然として、靜岡縣警察史上、不朽の光彩を放つことであらう。（六、三、一四）

所感

地方事務官
（前特別高等課長）　安田穰

畏しとも畏し

聖上陛下には民情產業教育等の實情を親しく御聖覽あらせらるゝの思召を以て昭和五年五月二十八日より一週間靜岡縣下に行幸仰出さる。百七十萬縣民は優渥なる　天恩に浴し無上の光榮と無限の歡喜とに感激恐懼至誠を捧げて奉迎し只管行幸の御安穩を祈願し奉れり。而して之が警衛警備の大任に當るは洵に絕大なる光榮なると共に其の職責の重きこと亦限なし。

今世惡の現況を觀るに其の思想往々危矯過激にして其の言動亦漸く險惡に走り中には不穩不規の行動を敢行せんとするものもなきにあらず。昭和三年三月同四年四月以來引續く日本共產黨の檢擧にも拘らず尙有力なる殘黨は巧に姿を晦し自暴自棄兇暴不逞の擧に出でむとす其の他各種の社會運動も極めて潛行的地下的となり動もすれば社會秩序を紊るの行動に陷るの疑なきを得ず一面最近殊に直訴其他不敬犯人頻出の傾向を示し加之刑事々犯も著しく增加し其の手段或は兇惡慘虐を極むるものあり。世態の推移既に既くの如し而かも行幸警衛警備の事たる極めて多端にして其の寬嚴宜しきを得るは蓋し難事中の難事這回の行幸に際し我等當面の責任者としては實に君國に報ずるの途今より大なるはなしと信じ眞に其の職責の重且大なるを痛感せり。

行幸警衛部の職制定められ、や特別高等事務と共に擧けて情報係に移りたるが世態の現況に鑑み特別高等警察上特に細心留意を要するものあり。係全員一致協力上司激勵の下に其の責務に精進し一意裏面內偵の徹底、事犯の事前防止に努むると共に制服警察官の活動と相呼應して　御巡幸御道筋の警衛に渾身の努力を傾注し御安泰を期し奉ることを得たり。

惟ふに警衛に付ては既往に於ける警備の經驗を參酌すると共に時世の推移現況に鑑み綿密周到なる計畫を樹立し要員を充實して萬遺算なきを期すること固より緊要なり。又官民の完全なる一致協力と各府縣間に於ける連絡協調の徹底に努むるにあらざれば蓋し其の萬全を期し難しと雖も更に特に最も重要なるは警衛警察官各自の强固なる責任觀と澈底たる士氣之なり警衛員各自がよく其の重要なる地位責任を自覺し其の職責に對しては獻身全力を竭し微瑕なきを期する確固不拔の信念と眞劍なる覺悟こそ實に警衛警備執行の源泉なれと確信す。

不肖特別高等課長たるの故を以て情報係長を命ぜらる光榮感激措く能はず心血を濺ぎ奉公の誠を致し重責に當らんことを神明に誓ふ。而して苦心焦慮したる處寔に尠からざりしと雖も特に係員一心同體協心戮力終始緊張せる精神熾烈なる士氣を把持して其の全能力を發揮すること此予の最も留意腐心したる所なり。予常に靜岡淺間神社に參拜神前に額き行幸奉行の平安を祈り又係員一同と共に參拜祈願して精神の統制、緊張、士氣の振作を圖るに努めたり。

聖上御駐蹕七日間御巡幸個所縣下各地に涉りたるも其の間何の御滯りもなく芽出度御終了あらせられ吾等微瑕もなく大任を果し得たるは固より御盛德と祖宗神明の加護に外ならずと雖も亦偏に上司の懇篤なる御指導、寢食を忘れて盡忠奉公の誠を致したる係員一同の至誠與りて力ありと謂はざるべからず。

六月三日正午龍顏いとも麗しく三島驛御發車縣民歡呼の裡に御還幸遊ばさるゝや警衛員一同感淚に咽びつゝ御盛事を祝福し聖壽萬歲を祈り奉れり感激に充たされたる狀は今に眼前に彷彿たり。

予の如きは只々無上の光榮に感泣し只管同僚係員の至誠協力に倚藉して重任の遂行に腐らんとしたるもの今玆に感激の念を新たにし感淚の抑へ難きを覺ゆ。（六、三、二〇）

感激の一端

保安課長警部　小澤正理

畏くも

聖上陛下の本縣御巡幸、此の御內報を承りました時私共は全く無限の感激に滿たされたのであります。私は保安係長として此の一世一代に於ける限りなき光榮と而かも其の重責に對しまして「如何にして此の大任を果すべきか」の一念の外何物もありませんでしたが時日の逼るに及んでは「必ず寸毫の過誤なきを期そう」と堅い信念が總身に滿ちたのでありました。固より主管事務の中一つとして輕視すべきものはありませんが就中最も重要なる銃砲火藥類の取締につきましては殆んど主力を傾注して課員を督勵し之れを二期に分ち取締をなし其の徹底を期すること、致しました。又電氣瓦斯公安風俗警火交通等に關しましても夫々事務分掌を定め、御召の車輛配置に就いては特に上司の嚴命もありましたので製圖係竝車

輛班員を特定して之れが完璧を期する事と致しました。其の間課員の眞に涙ぐましい不眠不休の活動によりまして準備計畫は著々と進み各御巡幸地に於ける御列自動車の實地豫習が滯りなく相濟みましたる時始めてほつとして或る確信を得た感が致しました。此處に於て一夜鄕里氏神に詣で同時に祖先の靈を拜して祈禱をなし謹んで第一日を御待ち申し上ぐることゝなりました。

陛下には御豫定通り昭和五年五月二十八日午後二時二十五分御機嫌麗しく靜岡驛に御着輦遊ばされ、縣下百七十餘萬の縣民は眞に至誠感激の頂點に達したのであります。其の翌二十九日には愈〻縣下消防組代表者一千五百名に對する御親閱を賛はせらる筈になつて居り私は之に總指揮官としての光榮ある重任を拜命致しましたので二十八日の午後清水埠頭に於て之れが豫習を致したのであります。白根知事閣下も御出て下さいまして豫習も滯りなく相濟みました。行幸第二日縣下消防組御親閱當日は參りました。嗚呼紀念すべき此日の清水埠頭に大國旗は高く春風に翻り我が縣下消防組代表者千五百名の健兒は無上の光榮に感激しつゝ發溂たる意氣に燃え四列横隊に整然として威儀を正し御著輦を御待ち申しておりました。午後三時三十五分江尻御著の號砲一發中空に轟き各員は愈〻感激と歡喜に高鳴る胸を押へつゝ一入緊張致しました。御召車は肅々として御親閱場に入らせ給ひ畏くも　聖上陛下には此處に御車を停めさせられ莊嚴な君が代の喇叭は嘲喨として吹奏せられ陛下には御徒歩にて第一中隊より順次御親閱を賜はつたのであります。玆に千五百の縣下消防組代表者は一天萬乘の御英姿に咫尺し奉り只管感激の外なく何れも宏大無邊なる御聖德に浴して只熱涙に咽ぶのみでありました。斯くして光榮ある御親閱も實に緊張裡に無事終了いたしました。私共は縣下六萬の消防組員と共に此の無上の榮譽をして永へに本縣消防組の誇とし奮勵努力苟も纒の下擲身君國に奉じ以て大御心に添ひ奉らねば相ならぬと思はぬ者はありませんでした。私は御列車輛の係たるの故をもちまして終始御巡幸地に御供するの光榮に浴しました。然るに到る處御警衛從事の警察官が眞に緊張して警察精神の充實せる勤務振りを目のあたり視まする時又一般奉拜者が眞に感涙に咽びつゝ至誠を以て奉迎し居る實狀を拜見いたしまして只々感激の外はありませんでした。七日に亙る御巡幸も滯りなく相濟みまして愈〻御還幸當日私は汽車内御警衛の大任を拜しましたが全く身に餘る光榮にて只々感激するのみでありました。御召列車が本縣を去り愈〻神奈川縣に入りました瞬間であります。神奈川縣警察官が顎紐をかけた緊張せる容姿を現はしました其の時同車中の宮内内務兩省の方々から「御目出度う御座います」と祝詞がありました。其の時中村警察部長殿と町村警務課長殿が私の筋向ひに着座して居りましたが何れも此の時大任を果し得た喜びの感に只默禱することしばし、限りなく湧き出ずる涙を押ふことが出來ませんでした。私共が御待ちに御待ち致しました御巡幸縣下千餘名の警察官始め隣縣應援警察官と共に眞に獻身全力を傾注して御警衛申し上げた御巡幸も幸ひ些の過誤なく無事に大任を全ふ致しました事は偏に崇き御稜威に因る事は申し上げる迄もない事でありますが直接我等の上司たる中村警察部長殿の全く涙ぐましい御熱心なる御督勵御指導の下に各係員の眞劍なる至誠奉公に依る賚であります。私は今更ながら當時の活動狀況を顧みまする時只々感激の涙新なるものある計りであります。

決死の行幸準備

御殿場警察署長（前刑事課長）　警部　鈴木準

畏くも　今上陛下民情御視察の篤き御思召を以て五月二十八日より我が靜岡縣下に七日間の行幸を仰出された時、我々警察官は此の千載一遇の光榮ある行幸を如何にして御安泰に御警衛申上ぐべきか、如何なることがあつても御無事に御警衛申上げねばならぬ、と堅き〳〵決心の下に全身に漲る血潮の躍動を禁じ得なかつたのである。

然しながら何分行幸期日が餘りに差迫つて居た爲め準備計畫の任に當る各係員の苦心努力は一通りではなく、晝夜寢食を忘るゝ文字通りの活躍を續け行幸前夜に至る迄夜を徹して其の準備を進める等實に當時の涙ぐましい獻身的努力に對しては眞に襟を正さずには居られぬ熱烈な情景であつたのである。

當時刑事課は行幸事務分掌の都合により特別高等課と合して情報係の名稱の下に一體となつて活動することゝなつたが、折も折伊豆修善寺驛前柏久保に發生した四人殺事件の犯人某が天城山に潛入逃走した形跡があり、引續いて極力捜査中の際であつたので此の天城の八丁池が六月二日の行幸地として決定發表せられたときは少なからぬ驚愕と言ひ知れぬ焦燥憂慮の念に充され責任上如何にしても行幸前に此の事件を解決すべく最善の力を盡し山狩其他の捜査手段を廻らしたのであるが微力の致す處終に杳として其の消息を極むるに至らなかつたことは返す〳〵も遺憾千萬であり且誠に恐懼に堪えぬ次第であつた。

尙又特高方面に於ても共産黨の首領某其他の殘黨員が盛んに兇暴なる行動に出でたる直後とて各府縣を擧けて之が逮捕に全力を注いだのであるが、終に其所在が判明せず反て屢々不穩の情報に接するので移動警察及特設隊の警備計畫は特に充分なる配置人員の必要に迫られて居たが經費其他の關係上思ひ通りに運ばず極めて少數なる人員に限定せられた爲め、隊の編成計畫上にも筆紙に盡し難い苦心が伴ひ各係員一同萬一の場合を慮り不穩情報のある毎に暗然たる不安の念を感じた事が幾度あつたであらうか。斯る際私は又警務課の警備計畫が進捗せざるの故を以て警務係の委員を兼任せしめられ行幸主務官の隨行を始め制服警察官の配置、編成實地踏査等の任に當ることになり是亦議論百出容易に決定せず配置要員の基本數字が眼の廻る樣に度々變るので各署よりは小言を申込まれ事務は捗らず幾度か作り替へ作り直して行幸數日前漸く一と通りの完成を遂げ再び情報係の勤務に復したのである。

然るに此の時迄の情報係の準備計畫は一層手遲れとなつて居たので遽に係員の增員を行ひ準備の進捗を圖つたが、係員一同の奮闘は眞に涙ぐましい渾身の力を奪ひ日に增し憔悴の影を增す顔貌にも勗めて疲勞の色を押隱し不眠不休の勞苦を厭はぬ悲壯を帶びたあの決死の活動振りは今尙忘るゝことの出來ぬ印象深きものとなつて居る。

斯くして行幸準備も辛ふじて成り行幸中私は主として特設隊の第二大隊長として活躍した尙又歯簿の先驅後驅を奉仕するの光榮にも浴し東奔西走隨分多忙な任務であつたが、幸ひ身體も頑健に約五十日間に亙る晝夜も分たぬ活動に何等の故障も生ぜず無事大任を果し行幸最終日の六月三日午後沼津警察署の特設隊本部に於て縣界無事御通過の祥報を受けたときには、實に嬉しさが胸一杯になつて思はず聖壽の萬歲を唱へ止めどなく流れ出る感激の涙を禁じ得なかつたのである。

嗚呼私の生涯を通じ此の時程眞劍な、そして光榮ある活動と感激の嬉しさに滿ちた日は又と再び來ない事であらう。

行幸を拜し奉りて

衛生課長　綠川門彌

衛生技師

聖上陛下　本縣に行幸被遊に就きまして、私は衛生係長として行幸關係の衛生事務に從事することが出來ましたことは、洵に光榮の至りで其重大なる職務を完全に遂行せむことを期して極力努力致しました、申す迄もなく本縣には靜岡、沼津、熱海の三個所に御用邸がありまして、皇室との御緣淺からず其地の皇族方も屢々御來縣がありますので、關係地方の官民は克く警衛關係の衛生事務各般に涉り承知して居りますが、今回の如く廣く縣內御巡幸あらせらるゝのは全く未曾有のことであり殊に產業御奬勵の思召をもちまして、御料食料品等は殆んど縣內より御買上げになつたのであります。從つて多數の個所から御採納に相成りました爲め、衛生事務も縣下各方面廣汎に涉りますので、自然不馴れの個所もあり、加ふるに私も赴任後日淺く縣內の地理に暗く且つ事情に通じない爲め、頗る憂慮に堪へないものがありました。職務の重大なるを稽へ、萬遺漏なきを期することを祈りまして、行幸關係地方の市町村當局及各種團體等と協議を遂げ其目的達成に努めました。行幸前の施設と致しましては、縣民擧つて健康で、陛下を迎へ奉り豫定の御巡幸を無事に終らせらるゝ樣にと、傳染病の豫防又は保健衛生上の施設御料食料品の精選等でありましたが、市町村當局及び各種團體等の絕大なる御援助を得まして、豫定の通り實施致しました結果、縣內の衛生狀態が殆んど一變したかの感じが致したのであります。又行幸當日は主として救護事務でありまして各地の醫師會員藥劑師會員靑年團員處女會員看護婦會員等が奉仕的に活動せられましたこ

とは、洵に感謝に堪へない次第であります。前記の如く各方面の團體及關係者等が誠心誠意其事に當つて下さいました爲め隨分心配に堪へなかつた此の重大なる任務を無事に終了することが出來ました譯であります。そして其後の衛生狀態は引續き頗る良好であることは縣民の爲め祝福に堪へない次第であります。何卒此意氣と狀態を永く持續致しまして、縣民の天壽を完ふせしめたいと思ひます。如斯は　聖上陛下の高き御稜威に因ることは申す迄もない事でありますが、又一面我國民が皇室に對する赤誠の發露がこの結果を齎したものと確信致します。今回の行幸を紀念し益々國運の隆昌と縣民の福祉を增進することに努力せなければならぬことを深く感じましたので感激の餘り大要を錄すると共に併せて衛生事務に從事せし各員に對し深く感謝の意を表する次第であります。

御警衛の思ひ出

靜岡警察署長
地方警視　三澤重義

畏くも　聖上陛下には昭和五年四月十四日本縣の產業、教育其の他民情御視察を仰せ出されました、此の時縣民の喜びは如何ばかりであつたか有難き御思召を拜しまして私も隨行するの機會を得て縣廳、裁判所、三十四聯隊、師範學校、葵文庫、商品陳列館、中學校、高等學校、淺間神社、富士製茶會社、練兵場と其の外に二三箇所檢分せられた所はありましたが結局この十一箇所に決定せらるゝ、御樣子でありました。元來靜岡市は古い市街でありますので道幅は頗る狹隘で所によつては御召自動車が漸く御通りする樣な所もあり否寧ろ夫れが多くて正規の御列に對する充分な幅員ありと思はるゝ所は極めて少なく未だ御道筋は決定して居らぬとは言へ何れを御通り願つても狹隘なることには變りはないのであります。斯の如き多くの場所に御立寄りを願ひその御警衛に從事することの無上の光榮であることは勿論であります。

りますが飜て如何に萬遺漏のなき御警衛を申上るかに想到する時、實に其の責任の重大なるを感じ猶特別の努力と決心とを要するものがありました。爾來警衛警備の爲めに警察能力の殆ど全力を注ぎ如何にして此の大任を果すべきかに關し徹宵考へ明かしたことが幾夜續いたことでありませうか

五月二十八日　此の日は愈〻午後二時二十五分靜岡市に龍駕を御迎へ申上げ天顏を拜しまして市民は歡喜に滿ちた日であります。御警衛應援として來援された警視廳及愛知、神奈川兩縣竝本縣の警察官を加へて總員一千三百五十名に對しては前日中に打合せ及配置豫行が濟んで居り當日は午前十一時から沿道何れも配置に就て居りました。拜觀の榮に浴さむとして未明より蝟集した民衆は堵を爲して途上に滿ち立錐の余地だにになく、沿道の前面には軍隊若くは學生其の他規律ある團體を整列せしめ其の後に一般拜觀人を入れ場所に依ては任意跪坐奉拜を爲さしめたのであります。而して內濠一帶は一人の普通拜觀人も置かぬことに致しました。翩々たる各團體族の下に引率者が整列して敬禮の豫習、子を制する親、珠數を爪繰る老婆、織交ふ行幸係員の自動車、警衛警察官の銳く光る眼、全市は此の張り切つた氣分に滿されて居りました。停車場は廣場から構內まで掃き淸められて一點の塵も置かず既に資格者はホームに整列し終つて只耳にするものは驛員と警察官の靴音のみ。嚴て秩序立つた沿道は砂目新に數萬の人影は微動だにせず奉迎の國族は一入の嚴肅さを加へて、知らず識らず襟を正さしむるものがありました。

御召列車は早くも市內に御這入りになり微かに車の轢る音を聞く折柄、この靜肅を破る奉迎煙火打續く三段雷、各人の面に輝く引緊つた艷嬶て御召列車は肅々と靜岡驛に着御あらせられました。本日より御巡幸三日間特に警察官が負ふ重大なる責任を目の邊りに感ずる時、吾等は實に緊張の結晶と化して肌に滲む冷汗、高鳴る心臟、この時の氣分は到底筆紙に盡し得るものではなかつたのであります。

五月三十日　この日は靜岡市の御巡幸を終へさせられて御西下遊ばさるゝ日であります。午前九時二十五分靜岡驛御發

車の御豫定で御警衛警察官は午前六時から配置に就きました。奉送拜觀の群衆は前日及前々日にも增して御用邸から驛迄の沿道は極めて短いので動きも取れぬ有樣でありました。私は市内の配置を一巡して驛に參りますと既に資格者はホームに整列して御發には餘時幾何もなく御召列車は靜かに御乘車を御待ち申上げて居ります。御日程時間になりますと奉送の煙火は喜の市を壓して轟き渡り構外に起る「氣を附け」の號令巍て御召自動車は靜岡驛に着御在らせられ次で　陛下　には多くの文武官を從へて陸橋を渡らせられ、御機嫌麗しく御召列車に乘御御發車遊ばされました。この時四圍肅として音なく丁度水を打つた樣に市民は緊張して奉送の誠衷を捧げ奉りました。御召列車は靜かに驛を離れて進行し次第に御車が見へなくなりました。此の時市民は何等の御恙あらせられず市内の御巡幸を終らせられたことに關し喜びの言を互に贈り合つて居りましたが私は猶一層緊張して只管　陛下　の御安泰を御祈りしつゝ驛前の派出所で部下よりの報告を待つて居りました。間もなく燒津驛御安着の報に接しました。先づ大體管内に於ける重大なる御警衛の責任を果し得たのであると熱涙の下ると共に身心躍動し嬉しさ此上もなかつたのであります。三日間の御警衛中些の御恙あらせられず之れ偏に宏大なる御稜威の然らしむる所ではありますが亦警衛警察官が寢食を忘れ夙夜其の職責の前には殪れて後も猶熄まざるの赤誠を以て一意專心克く警衛に從事したる賜ものであることを玆に深く感謝するのであります。

然し私はまだ第二の勤務として濱松市に御巡幸の際歡迎の先驅に勤務するの光榮に浴して居りますので直に此所より警察署に歸つて事務の整理、留守中の命令、出張準備等を終へて午前十一時三十二分靜岡驛發下り列車で濱松市に向つたのであります。背摺りに凭れて靜かに考へて見れば種々な思ひ出が湧いて來ます。主務官の御伴をして賤機山の展望臺に登つた時は若し地元署長として先驅を承つた時は此の肥大漢途中で動けなくなる樣なことはないだらうかと氣を病んだこともありました。富士製茶會社ではこの茶埃の中に御迎へ出來得ることは畏いことであると共に有難涙が浮んだこともありました。平素は仲々むづかしい電柱やポストの移轉、橋梁の修繕、街角の取擴め等も今回の御巡幸に際しては話しすれば直に實施して呉れた如き感謝に堪へなかつたことの一つであります。未だ御道筋の決定せぬ内に豫定路の警衛配置に毎日〳〵圖面と卷尺で終始して決定を視ると大違ひだつたこともありました。殆ど徹夜で配置圖作製に當つたことも幾夜重つたことか、應援警察官の宿舍で數日間惱んだことや、又は御親閲場の配置に缺陷があつて警察部長に冷笑されたこともありました。遠く伊豆から奉迎に出て來た學生團に豫定が無かつたので氣の毒をした事もありました。當局からの注意も聞かずに自由勝手な行動を取られて止むを得ず檢束しなければならなくなつたこともありました。夜の仕掛花火に豫想外の人出で取締に困り抜いたこともあり、想ひ來れば忘れることの出來ない深い印象は綿々として盡る所を知らないのであります、この汽車の中程輕い氣分に安心した愉快を味つたことは生れて四十四年曾て經驗したことの無い絕大なものであつたのであります。

大任を果して

清水警察署長
警部　小田重義

聖上陛下　には地方行幸の嘉例を開かせ給ひ卽ち初夏清和の候を卜し縣下の民情、產業、教育、其他各般の事情に亘りて親しく御覽はし給ふ叡慮を以て五月二十八日より一週間の長きに亘り特に本縣下に御巡幸あらせられたり。その砌五月二十九日聖駕を縣下唯一の港灣都市たる淸水市に枉げさせられ畏くも玉步を築港の埠頭並に豐年製油株式會社淸水工場に印し給ふ。六萬の市民齊しく欣喜し此の畏しこき大御心に恐懼感激措く所を知らず。殊に職を警察に奉ずるもの此の稀有の行幸に遇ひ警衛の大任を享く其の榮譽何ものか之れに如かむ。此の榮譽と大義を完ふせんが爲め八十二名の署員と戮力協心して準備行動其他一般の治安維持に獻身的努力を傾注し、無事之れを果せるは全く天祐の致す所なり。今次の警衛に就

て感ぜしは、

一、和衷協同心の強調

警衛の大任を完全に果さんとせば之れに從事するもの和衷協同戮力協心全く一體となり邁進するの決心なかるべからず故に時々會議を開催し連絡を計り訓練を行ひて之れを養成し以てその強調に努めたり。

二、警衛に對する民衆の理解

今回の行幸に對する警衛は其の準備期間極めて短く而も地方行幸として前例なき長き御日程と加ふるに聖駕縣下に遍く臨幸遊ばされしが故に到底限ある警察の力のみにては之れが完璧を期し難し此處に於てか所謂國民警衛の必要を痛感し民衆に對し警衛の趣旨を徹底理解せしめ以て其の實を擧ぐるに努めたり。又一面今次の警衛は大多數が應援警察官なれば地方の人情風俗等を充分知悉せざる者もあるべく從つて其の間言語感情等の行違ありて問題を醸すが如きことなきを保せず、故に一般に對しても特に之れが趣旨の徹底に努めたる結果幸ひにして市當局始め市民は良く理解し相戒めて自治的に市民中より不敬漢を出さゞるは勿論些の不祥事を起さゞるに努むるに至れり。之れ國民として當然の事と言へ亦努力の効果ありしを思はしめたり。

三、各種團體との協調

各種團體との協調の必要なるは獨り警衛事務のみならざるも特に警衛事務に關し其の必要を切實に感ずるものなり。就中今回の警衛の如き全く多數の應援ありても尙不足を感ずるの事情にあり、一層其の感を深ふせしものなり。幸に消防組、在鄉軍人、青年團等獻身的の應援あり殊に消防組の如き清水市内の衞生に關しては全く犧牲的奉公の誠を致し遂に猖獗を極めんとせし傳染病を撲滅し行幸に際し些の支障なからしめたるはその努力の賜と云ふも過言にあらず。尙ほ警衛に際し痛切に感ずるは「警眼と膽力」となり、卽ち最も細心なる注意力と萬一の場合に周章狼狽して爲す所を知らざるが如きこと無き覺悟を要す。云ふ迄もなく警衛の中心觀念は絶對に事故なきを期するにありて其の取締たるや極めて嚴密ならざるべからずと雖も苟しくも一般民衆に對しては　陛下に恭しく奉拜の誠衷を捧げしむるの機會を與ふる眞意を有せざるべからず。

陛下　亦畏くも消火水防の施設に御軫念あらせられ二十九日清水市に御臨幸の砌清水築港埠頭に於て特に本縣消防組代表者一千五百名に對し極めて森嚴なる御親閱の光榮を賜ふ。惟ふに昭和四年一月六日全國消防組の代表を御親閱あらせられ帝國消防の晨光を添へ給ひしに今重ねて此の聖旨を忝ふせり。然れば力を消防に致すもの永く此の光榮を紀念すると共に其の責務の重大なるを悟り以て獻身的奉仕を盡しこの優渥なる聖恩に酬い奉らざるべからず。

願みれば五月二十八日帝都御發輦一週日に亘る御巡幸に際し擧縣一致最も靜肅謹嚴裡に終始して御警衞の任を完ふすることを得たるは一に宏遠無窮なる御稜威の然らしむる處なれ共亦叡慮を奉戴せる縣民の赤誠亦擧つて力ありしことを忘るべからず。

今次の御巡幸に就き警察と民衆との關係極めて緊密に相扶け且つ秩序統制ある消防組、在鄉軍人、青年團等の團體が協力し自警的に治安を維持し又第二線の警衞に從事し克く國民警衞の實を擧け亦警視廳、神奈川縣、愛知縣等より派遣されたる應援警察官と本縣警察官との間に其の和衷を得協心戮力克く重責を竭したることの數々は洵に感佩措く能はざる處なり。

み民吾生けるしるしあり天地の
榮行く御代にあへらく思へば

島田警察署長

感想

警部　岡本作平

警察に職を奉じて以來警衛勤務に就きしこと數多あるも過ぐる昭和五年五月二十八日以降七日間畏くも　聖上陛下には縣下產業竝に民情御視察の篤き御思召を以て本縣下に御巡幸あらせられた際に於ける御警衛勤務程光榮に感激せしは曾て經驗せざる所なり。五月七日警察署長會議開催され上司より警衛警備に關する訓示竝に具體的指示注意等を受けて其の任務に服するの光榮に喜びの念禁ずる能はざると共に一面此の重大なる任務の遂行に聊かの遺憾なきを期すべく感奮緊張せるは會同者何れも感を同ふせしならむ。殊に管內島田町に親しく龍駕を迎へ奉ることは六十三年前明治大帝行幸以來の盛事に屬し加之島田驛は牧ノ原農事試驗場茶業部へ御臨幸の御乘降驛に充てられ地方民の感喜譬へん方なく早くも島田金谷兩町民が往時汽車なく自動車なく渡船禁令時代大井川唯一の交通機關なりし連臺越の往時を偲ぶ有樣を實演して天覽に供し奉らんとする催ある等感激その極に達したり。故に當日の混雜は亦豫想に難からず多數奉拜者の保護整理を始め警衛警備の容易ならざるを念ひ署員を督勵し之が計畫に視察調査に日夜心血を注ぎたり。又地方民衆が途上奉拜に對する何等の訓練なきが爲め此の點一層の不安を感ぜざるを得ざりき。然るに最も記念すべき聖駕を迎へ奉る五月三十日は早くも未明より島田驛、大井川鐵橋間の沿道に奉拜者蝟集し其の數無慮數萬各種團體一般奉拜者共に豫定地を埋め眞に立錐の餘地なき盛況を呈し遠きは拾餘里を隔てたる交通不便の山間僻地より遙々天顏を拜せんとして來れる者尠からざりしと聞く。午前十時四十分奉迎煙火の轟きは島田驛御着を報ぜられ奉拜者は何れも一段の緊張と喜悅を加へたり。鳳輦は淨められたる御道筋を肅々と進御大井川鐵橋に御着輦、畏くも　聖上陛下には此處に御車を駐めさせ給ひ大井川連臺越を御興深く鬢は せらるゝ事五分間牧ノ原に御臨幸の後再び島田驛より午後一時十分掛川町に向はせ給ふ。此の前後二回に亘る奉拜者の嚴肅にして緊張せる光景は眞に赤子として當然のことながら何れも感激の熱涙に咽ばざるはなし。消防組及在鄉軍人分會は警衛警備に青年團は御通路の撒水清淨に夫れ〳〵涙ぐましき活動をなし其の芳んばしき精神は皇室を敬慕し奉る至誠のあらはれにして廣大仁慈限りなき御聖德の然からしむる所是卽國體の萬國に冠絕する所以なり。

不肖行幸第一日には靜岡市に於て後驅として鹵簿に奉仕し第三日には署在地大隊長として島田驛に御警衛申上げ第四日は濱松大隊に應援し殊に濱松高等工業學校に於ては天顏を咫尺の間に拜し奉り寔に恐懼感激に堪えざる所なり。爰に大任の大體を果し得たる時、唯々感激の念と至誠奉公の情に燃ゆるのみ、畏くも聖上陛下の御德は今更申上ぐる迄も無く洽ねく萬民に垂れ給ひ日常御規則正しく亘らせられ且つ御質素に遊ばさるゝ御模樣等の實際を拜し一天萬乘の君の御躬を以て民を憐れみ範を御示し給ふ有難き大御心に感激し更に後日知事閣下の謹話に依り平素極めて質素剛健に遊ばさるゝ數々の御事實を聞くに及んでは唯感泣の他かなかりき。

畏れ多き極みながら是等幾多の活教訓を基調とし動々もすれば思想動搖し浮華輕佻に流れ易く物質文明に偏重し國民道德低下の傾向ある國步多難の折柄吾人は心氣を新にし盡忠至誠以て奉公の途に精進し聖慮の萬分の一に添ひ奉らんことを期せざるべからず。

所感

掛川警察署長
警部　廣岡龜太郎

聖上陛下　には客年五月三十日掛川町大日本報德社に行幸あらせられまして親しく龍顏を拜し且御警衛の任に當つたことは私共として此の上なき光榮に存ずる次第であります。

掛川町に於ては　陛下が報德社にお出でになると云ふことを知るや町當局竝に一般民は停車場通の道路の一部が甚だ狹隘なのを憂ひ遽に之れを擴張する議が起りましたこの工事は永年の懸案であつて從來一部關係民の爲め實行不可能であつたのが畏くも　陛下の奉迎を前にして此の問題は立どころに進捗して道路の擴張が出來たことは誠に喜ばしいことであります。

當管内は　陛下を御迎へ申上ぐるに就いても鐵道と御道筋の兩方面に亙るので鐵道は八粁九御道筋は一里二十町餘の延長であります其の責任の重且大なることも一層感じた譯であります。夫れ故行幸事務に就ては關係町村當局各種團體と協力して大任遂行に努めました。而して　陛下が本縣に行幸あらせられて以來署員は殆んど不在となり從つて凡てが手不足になりましたので町村の警備は消防組其の他の團體に援助を乞ひ相協力して治安維持警火防疫に努め行幸當日迄は漸く事なきを得ましたが扨當日鳳輦を管内にお迎へ申し上ぐる時は御警衛の責任の重いことを一段と感じまして只管　陛下の御安泰を祈りました畏くも陛下には掛川驛から報德社に御立寄の上東海道を中泉へ向はせられましたが管内御通過中は掛川驛から見付署の境界迄龍顔を拜せんとして集へる赤子の群れが立錐の餘地なく堵列し一面醫師會を促して臨時救護所を御道筋に數ヶ所設け且沿道の醫院は何れも救護所に宛て、萬一の場合に備へました。何分千載一遇のことで奉拜者は無慮數萬と云ふ多數でありましたが何等の事故もなく奉拜の光榮に浴し誠に欣快とする所であります。

猶管内に　陛下の行幸を仰ぐことを得ましたので私は其の職責上一には御警衛に手落なく二には管内の赤子をして洽く龍顔を拜することを得せしめたいと心掛け　陛下　を御迎へ奉り只管御道筋の御安泰を祈つて些の支障なき樣御警衛を申上ぐることを期したのでありますが凡べてが　計畫通り行きまして之れ程欣快のことはありません。終りに　陛下の千壽萬歲と皇祚の無窮を祈つて茲に擱筆する次第であります。

御警衛の思ひ出

三島警察署長
（前見付警察署長）　警部　中山儀一

鶴駕御巡幸の第一日昭和五年五月二十八日縣外山北驛に奉迎しそれより汽車内警衛の光榮に浴することを得ました。

聖上陛下　には龍顔いとも麗しく沿道堵列の奉拜者に對し一々御會釋を賜りましたことは洵に感激の極みで靜岡驛附近は勿論御用邸迄の御道筋は全く文字通りの人垣であるにも不拘、咳一つだにするものゝない靜けさは全く奉迎の赤子の誠心でなくてなんであらう。

行幸第三日、五月三十日は吾が見付警察署管内のものの特に永遠に記念すべき日で、國道三里十五町の間を掛川報德社から中泉農學校へ御臨幸の當日であります。吾等は管内の消防組員在鄉軍人其他公私團體と力を協せ、只管其の日の御恙なきを期し諸般の準備に活動して遺漏のないことに努むること茲に月餘、而して今や其の日は到來したのであります。廣重の畫にも見紛ふ樣な松並木、素朴な民家、道は淸淨で和かな日の光、初夏の綠や微風も心地淸が〳〵しく眞に行幸の好日和でありました。警衛配置の消防組員在鄉軍人等は夫々の部署について今は只だ時の移るを待つのみ：一時間：三十分：二十分：と途上一帶奉拜の群集、然も整然とした秩序の下に御仁德を仰ぎ龍顔を拜せむとするその何れもの面影に眞心が溢れて艶々しいもののあつたのは恐らく外國に見受けることの出來ない情景であります。此の日畏れ多くも　陛下には沿道の民情を覽なはせられ尙農學校に於ては親しく農事に關して御下問あらせられた由を拜聞致しました。聽て時刻は移り中泉驛御着、玉歩神々しくも御召列車に乘御御豫定の通り肅々と崇嚴裡に濱松に向はせられたのであります。奉拜の人波は暫し感激のどよめきも絕へず、奉送の萬人眼底に露を宿したものさへありました。吾等は此の御盛事に奉仕して只だ君恩の難有さに感泣するのみで、臣下の本分を盡すべく心の裡に固い誓ひを致したのであります。

行幸御警衛所感

濱松警察署長
地方警視　望月秀作

畏くも　天皇陛下には昭和五年五年二十八日東京御發輦靜岡濱松沼津に各々二日宛御駐泊の上縣下各地方を御巡幸遊ばされ本縣の民情產業教育其の他公私諸般の施設に對し親しく御視察あらせらるべき旨御内定の趣漏れ承りし際我等は本縣

警察に職を奉じ適々この盛事に遭ふは誠に無上の光榮として感激措く能はざると共に又如何にして警衛警備の大任を果すべきかと深き緊張を覺え衷心恐懼の念に堪へざるものありき。

御駐泊豫定地の中、靜岡沼津には夫れ〳〵御用邸あり　又屢〻行幸啓を仰ぎし經驗あるに反し濱松地方には御用邸なきのみならず沿道に鳳輦を迎へ奉るは實に空前のことにして　明治大帝が御遷都の砌御通過あらせられしことの外曾つて歯簿を拜せしことなく、今次行幸の恩命に接するや市民一同歡喜感激の熱情に燃えつゝあるは當然のことながら奉迎に關する經驗と訓練に乏しく加之濱松市は工業都市として近時著しく發展の域を辿りつゝあるも何分にも新興都市の常として一般市民の規律節制不充分の憾ありて警衛警備上不安なき能はざる狀態にあり。

五月中旬宮内省木下行幸主務官來濱せられ檢分を行はれたる結果行在所には三方ヶ原飛行第七隊將校集會所を充てられ市内に於ては、高射砲第一聯隊、濱松高等工業學校、縣立濱松工業學校、同工業試驗場、帝國製帽株式會社、名古屋鐵道局濱松工場、濱松市公會堂、日本形染株式會社、日本樂器製造株式會社等を郡部に於ては舞坂町所在株式會社服部、中村養鼈場を御視察遊ばさるゝことに決定せられたるが右御巡幸の順路には道路の狹隘なる箇所多く尚又各會社工場に於ける天覽作業の中には多少危險の伴ふ虞あるものありて警備上特に注意すべき點尠からず。御巡幸に當り之等に對し萬全を期し　聖慮を安じ奉るは實に警衛警備に任ずる警察の責任にして其の重大なるを思ふ時只管御平安を神に祈願すると共に萬死以て事に當り遺漏なからむことを誓へり。

斯くて警察署員一同協心戮力不眠不休の活動を續け保安、衞生其の他警衞警備上諸般の計畫及取締の實施に努力したる結果漸く任務の遂行上確信を得るに至り一面軍隊側市役所其の他行幸關係各官公署、會社、工場、各種團體等との連絡協調も極めて密接に且つ順調に進捗し各方面に於ける奉迎關係諸般の準備全く整ひ光榮の日を待ち奉れり。

五月三十日午後三時四十五分　聖上陛下には御豫定の通り濱松驛着御自動車歯簿にて直ちに驛前を發御新裝の鍛冶町大通りを右折して田町、池町、尾張町、上池川町を經て姫街道を進御午後四時十分恙なく行在所なる飛行第七聯隊將校集會所に着御あらせられたり。當日市内は勿論姫街道に至る迄御道筋の兩側に堵列せる數萬の赤子は初めて歯簿を奉拜し輝くばかり颯爽たる御英姿といとも麗はしき龍顔を仰ぎ光榮と感激の涙に咽び奉迎中微動だにするものなかりき。

五月三十一日には午前九時行在所發御高射砲第一聯隊、濱松高等工業學校御視察、同校々庭に於ける西部縣民代表者の奉迎式に臨ませられ、次で濱松工業學校、同工業試驗場、帝國製帽株式會社、名古屋鐵道局濱松工場御視察の後濱松市公會堂に臨御有資格者に拜謁を賜り午後日本形染株式會社、日本樂器製造株式會社御視察の上高射砲第一聯隊練兵場に於て中等學校生徒在鄉軍人青年訓練所員青年團員等の御親閲を行はせられ午後四時五分行在所に著御遊ばされたるが當日は實に七時間有餘の長きに亙り濱松市内を隈なく御巡幸の上親しく各方面を御視察遊ばされし事は誠に恐懼感激の極みなり。此の日歯簿を拜觀せんとする赤子は十數萬を數へ沿道に溢れ、更に空地其の他隨所にならび各町内住民及び團體何れも紀律整然として堵列し緊張と感激とに充ち漏なく天顔を拜して歡喜と光榮とに躍動せり。

六月一日には午前八時行在所發御濱松驛より御召列車にて辨天島驛に行幸同驛前より御徒歩にて假棧橋迄の間玉歩を進めさせられ株式會社服部、中村養鼈場御視察の上同驛より再び御召列車にて鷲津驛に向はせられ同所より御召船に乘御濱名湖御巡航佐久米に御上陸、官幣中社井伊谷宮御參拜の上濱松行在所に還幸遊ばされ滯りなく濱松方面御巡幸の御日程を終へ再び歯簿を濱松驛に進めさせられ午後一時三十五分濱松驛御發車　天機麗はしく沼津御用邸に向はせられたり。

幸に御巡幸中　至尊に何等の御恙あらせられず大過なく警衛警備の大任を全うするを得たるは是れ偏に　御稜威の然らしむる所なりと雖亦關係官民各位の協力一致奉公の赤誠を披瀝せられたるに依る所大なりと言はざるべからず。特に行在所御警衛に關し軍隊側より細大となく連絡を保持せられ且好意を以て當られ警備上多大の便宜を與へられしこと、濱松市當局幷に市内各町總代各位がよく警察を理解し援助を措まず且各町内自治的に警戒取締を行ひ以て市民の治安を確保し又

奉迎に際しては紀律節制を重んじ一般民衆の奉拜に對して多大の便宜を與へられしこと・管内消防組員、在鄉軍人會員等は直接御道筋の警衛に應援せられたる外、市内及各町村内に於ける保安警備上に努力せられたる結果御巡幸中火災・交通、犯罪、其の他警察事故の絶無を期し得たること、本縣内及警視廳大阪府神奈川縣愛知縣等より應援派遣の警察官が誠心誠意の努力と嚴格適正なる取締に依り豫防警察の實を擧げ行幸中何等の事故を發生せしめざりしこと、等に對しては何れも深く感謝してやまざる所なり。

惟ふに　一天萬乘の大君の御英姿を拜するだに畏き極みなるに御巡幸中特に公會堂に於て親しく拜謁を賜り恐懼感激言ふ所を知らず颯爽たる御英姿を拜し宏大なる御聖德を仰ぎ奉りたる我等は彌々皇室の御繁榮を祈り奉ると共に益々至誠奉公國運の隆昌に貢獻し以て無窮の聖恩に酬ひ奉らむことを期せり。（終り）

御巡幸御警衛に關する感想

氣賀警察署長

警部　鈴木平六

御巡幸第五日、六月一日は長くも

聖上陛下　我引佐郡下に御巡幸被爲在べき御日程で當署管内は陸路五里二十三町二十三間竝に濱名湖上とを併せ管轄し夫れに五百四十名の警察官と五百十五名の消防補助員とを沿道に配置し御警衛を申上御通路の安全を期する日で而も氣賀大隊長として其衝に當り責任を果すべき最大名譽の日である一ヶ月有餘の張り詰めたる精神はいやが上にも緊張し前夜は臨時警察署内に設置の消防組氣賀支部員と共に徹宵して警戒に任じ夜は未だ明けやらぬに沿道の巡視と諸般の警衛準備に忙殺されて居る。沿道の各町村は朝から奉迎の準備に忙しい殊に引佐の地は草深い片田舍で御車の進御にも御支障はないかと氣遣れる程狹隘な道路であつたが急速の修繕や町村吏員又は奉仕團の活動によつて道路は一塵も止めぬ迄に清掃され

撒水の跡すが〳〵しく各戸に揚げられたる國旗は初夏の微風に翩り山河は悉く歡喜の曲を奏して居る。今日は千歲一遇の光榮に浴し齊しく龍顏を拜し奉らんと引佐五萬の民草は一日千秋の思をなし待ち焦れたる日である未明から老若男女は津々浦々より集ひ來り沿道は垣をなして其數幾萬なるを知らず。嗚呼此の盛況皇恩の深遠なる感激の涙は禁じ得ないのである。

沿道配置の警衛員は其責任の重大なるを感じ今日こそ赤子の至誠を捧げんと配置に就き諸般の勤勞に服して居る其緊張したる精神には只感涙の外は無い裏面には引佐郡下八百の在鄉軍人も亦未明から活動して居る山と云はず河と云はず畑と云はず苟しくも人の潛む餘地ある所は警衛員と共力して徹底的に檢索を行つて居る既に蟻の這ひ出る隙なもい殊に姫街道三ヶ日町方面は遠く愛知縣方面より本坂峠や宇利峠を越えて主義者が潛入するやの流言蜚語があるので同方面の警戒は一層嚴重を極めた斯くして諸般の準備は整つた刻々と時間は迫つて來る沿道の警備手順を充分見て佐久米海岸に至り鹵簿の奉迎を申上げた。

佐久米海岸は御上陸地でもあり特に重立つた官公吏や戰病死者の遺族や廢兵で奉迎を申上ぐる奉拜所に充てたのである此の日天氣は快晴と云ふにあらざれ共初夏の好日和に湖面は浪靜に湖岸に堵列する數萬の赤子は航路幸あれかしと祈りつゝあるに間もなく沖合遙かに三保丸を御先頭に數隻の供奉船を隨へさせられ發動機の爆音勇ましく進ませ給ふ。

陛下には濱名湖の風光や角目網の漁業を賞でさせられつゝ午前十時四十分には既に御着船被爲在直ちに御上陸夫れより陸路官幣中社井伊谷宮に向はせられ午前十一時二十分井伊谷宮に着御玉歩を社前に進めさせられ御親拜の後金指町を經て姫街道を一路飛行第七聯隊に向はせらる其間沿道は肅として聲なく無事行在所に着御あらせられ供奉した私もこの大任を恙がなく果し全く萬感胸に迫り感涙を禁じ得なかつた。

顧ふに御警衛の大任は警察官の最大名譽であり私も警察に職を奉じて二十有餘年この千載一遇の光榮に浴することを得

た歡喜は實に筆紙に竭きない而かも幸に些の遺憾だに無く御警衛を申上ぐる事を得たのは偏に　陛下の御稜威に依ることは申す迄もないが亦他方懇篤なる上司先輩諸賢の御指導と諸計畫の正鵠であつた事竝に警衛員の一致共力之に當つた賚であることを深く感謝する次第である此の歡喜と四十日間に得たる體驗とは今後益々精神を強固にし奮勵努力して聖恩に奉答せん事を一層堅く腦裡に刻せられたのである。

佐久米湖岸

初夏山川深綠新灣頭風軟氣如レ春
昭和天子玆巡幸湖畔正レ襟拜二錦紳一

光榮に感激して

沼津警察署長　地方警視　增田金作

玆に形容し能はざるも、沼津市は御用邸所在地として、六月一日より三日間に亙り、聖上陛下　御駐輦あらせらるゝことに御治定相成り、不肖の身を以て沼津警衛大隊長として、沼津御用邸竝に御巡幸に關する御警衛の大任を拜し、猶靜岡市内御巡幸あらせらるゝに當りては鹵簿先驅として勤務するの光榮に浴したるは、誠に感激に堪へざると共に、其責任の重大なるを思ひ行幸第一日たる五月廿八日より御還幸まで、毎朝必ず沐浴して、伊勢大廟竝に皇居を遙拜し、只管御恙がなからんことを祈り奉れり。

五月廿九日は、靜岡市内を御巡幸あらせられ、金谷警察署長青木警部と共に先驅警衛の命を拜し、御豫定の通り歩兵第三十四聯隊より順次御巡幸あらせられ、午後靜岡練兵場に於ける本縣東部（大井川以東）の青年團其他各種團體御親閲の際　陛下には四十五分の長時間に亙り、直立不動の御姿にて、數十の分列團體に一々御答禮あらせられ、此の間御微動だに遊ばされざりし、此の神々しき、嚴肅なる、規律的なる、御英姿を拜し、臣子として最も強き感激を禁じ得ず殊に規律的、時間的勤務に服し、堪忍の精神を要件とする警察官として此の有り難き活教訓を拜し、自ら省みて誠に恐懼に堪へざる所なり。

通常御警衛としては、時に夜間の場合なきにあらざれども　聖上陛下の夜間行幸あらせらるゝことは、全く稀有の御事にて殊に最初より夜間の御豫定なりし場合と異り、六月二日の御歸還は圖らずも御途中の御都合によりて、夜間となりたる場合なるが故に、御警衛上の苦心と困難とは、誠に言語に堪へざるものありき。

卽ち六月二日は、沼津御　邸御駐輦第二日にして、天城御登山の御日程なりしも、前夜より細雨降り續き、拂曉に至るも猶止まず、沼津測候所の天氣豫報によれば、「朝鮮中部の低氣壓は日本海を出でゝ北東に進行、沼津地方は明朝（二日）南西の風曇り細雨ある模樣」と云ふにありて、晴雨の程も計り難く、天城山の御道筋は、盛土を爲したる箇所尠からず、降雨の爲泥濘深く、御難路なるは想像申上ぐるに難からず、或は御取止め遊ばさるゝにあらざるかと、拜察し奉りしに　陛下には此の雨天も御厭ひあらせられず、御豫定の通り御決行の旨仰出され、動々もすれば躊躇逡巡、決斷の勇氣に乏しき現國民に、御模範を垂れさせ給へるは、洵に畏き極みなり。

當日の御順路は、西御用邸裏海岸より、海路御發輦、若し荒天の場合は、正門より陸路江の浦港に行幸、それより御乘船あらせらるゝ、御豫定なりし爲、警衛線は、海陸二方面に配置し、御還幸は重須海岸より御乘船、午後五時三十分、江の浦港に御上陸あらせらるべき御日程の所、御難路の爲遲れさせ給ひ「曆表の日沒」午後六時五十一分に至るも、御召船を拜する能はず、漸次夕暗迫り殊に曇天のことゝて、刻一刻と暗黑に赴き、御警衛上の困難到底晝間の比にあらず、其重なる點を擧ぐれば

一、御上陸地點及御道筋は田舍縣道にて有效なる照明燈なきこと、

二、奉拜民衆は鶴首してお待したる餘り漸次緊張を缺くの虞あり兒童等の泣き聲さへ聞ゆるに至れること、
三、警察官は午前六時より勤務に就き（中途休憩）たるものにて漸次疲勞の程度を增したること、
四、御道筋は險阻なる山岳の直下にして小石一個墜落するも直に御召車に落下するの狀態にあること、
五、暗夜の爲め視線の十分效かざること、

等幾多困難なる條件累加して、警察官の苦心一方ならず、殊に江の浦港に於て、宮內職員の語る所によれば　陛下が夜間行幸あらせらるゝことは全く異例の御事にて、御召自動車に「ライト」を點ずるは、今回が始めてなりと。之れを聞くに及んで憂ひは益々深く、此の時こそは眞に脂汗の滲み出づるを覺えたり。故に警衛線に對しては、特に警戒を嚴重ならしむべく「サイドカー」によりて數回の警告を發し、一方靜浦村長及同村消防組をして、高張提灯數個を用意せしめ之れに點火して、御上陸地點の目標と爲し、警察官には應急措置として、御用邸專務用の懷中電燈を配し、沿道民家には提灯を點ぜしめて僅かに御警衛の視線を有效ならしめ御待ち申上ぐる內、午後七時二十五分江の浦港內に轟く奉拜民衆の萬歲の聲と共に　陛下には龍顏麗はしく御上陸遊ばされ、輝かしき御召自動車の「ライト」は普く沿道の民草を照らしつゝ、午後七時四十分無事西御用邸に還御あらせられたるは誠に芽出度き極みにして恐らく今回の御警衛中、危險と困難との憂ひの大なる點に於て最大最重のものと思惟し緊張其の極に達したるが、何等の御意もあらせられざりしは誠に有がたく感激に堪へざると共に、此の御警衛に奉仕し記念すべき尊き體驗を共にせる警察官並に消防組員諸君に對し、深厚なる感謝の意を表する所以なり。

顧みれば　聖上陛上本縣下に行幸仰出されて以來、御警衛警備に關し、縣警察部當局の計畫施設最善を盡し、銃砲火藥類等危險物其他保安警察上の取締、特別高等警察、衞生警察、其の他遺漏なき御指導の下に地方警察官能く寢食を忘れて忠實に職務の執行に當り、準備全く整ふに至る迄の苦心は、容易ならざるものありしも、行幸第一日たる五月廿八日より六月三日に至る七日間、御用邸竝に沿道御警衞の大任に當り、何等の御滯りもなく無事御還幸あらせられたるは、誠に有がたく感激に堪へざる所にして、六月三日正午、三島驛を御發輦還幸の途に上らせ給ひ愈々管內無事御通過あらせられたる情報を受けたる時こそ、正に大任を果したるの感切なるものありて衷心より天地神明に感謝せり。

之れ偏に宏大無邊なる御稜威の賜なるは勿論なれども、亦上司の指導計畫の下に、直接御警衞の第一線に立ちたる忠實なる警察官の、和衷協同能く困難に堪へ、苦痛を忍び一意專心忠誠を捧げたると、加ふるに縣下消防組員諸子が、警察官の補助として直接御警衞線に又は間接に地方治安の擁護に當り、至誠御警衞に奉仕せられたる結果にして、卽ち本縣官民上下一貫せる至誠の結晶に他ならず、茲に當時を追想して感慨無量なり。

謹んで皇運の隆盛を祈り、併せて關係官民諸賢に對し深甚なる感謝の意を表す。

大仁警察署長
警部　竹內種作

御警衞雜感

畏くも　聖上陛下には昭和五年五月二十八日より六月三日に至る七日間本縣下產業民情御視察の御思召を以て御巡幸仰出され不肖等又此御警衞に奉仕するの光榮を擔ひ身に餘る面目と只管恐懼して當時の狀況の一端を申述べ何等かの御參考に供したいと存じます。

靜岡縣廳前の外濠の櫻も旣に落花して名物の御茶の薰り愈々高まらんとする頃の四月二十一日私は大仁警察署に赴任せんとして出發の途次重ねて上司に御挨拶し且當時縣下刑事警察界に一大センセーションを卷き起した四人殺事件の搜査等申述べ去らむとするに際して上司より「洩れ承る處に依れば　聖上陛下來る五月下旬頃本縣下御巡幸の砌り天城山八丁池にも御登山あらせらるゝやの趣きに就ては至急實地踏査を遂げ準備し置かるべし」との御內示を受けましたが是抑々の御

警衛に就ての魁けで赴任するや直に圖面を披見して漸く探し當てた程度でありまして當時の署員は未だ實見せしものもなき狀況で早速準備に着手致しましたが、早くも木下行幸主務官には四月二十六日來豆せられ二十七日に登山實地見分せられました。當時の天城山には山道に添ふて石楠花や米山櫻滿開して加ふるに青笹密集中に突出した馬酔木の新芽がまた青や黄の色とり〴〵で宛然大公園中を活歩するの感深きものがあつたのであります。以來內務省や靜岡縣廳の上司時々視察せられ其の都度御案內して山中に於ける檢索や警察官の配置等に就き指示を受けて計畫の進捗に努力しました。

管內御巡幸御道筋は田中村、修善寺町、下狩野村、中狩野村上狩野村等の五ヶ町村で天城山中を併せ此延長は往復約十七里二十四丁五十間で田中村境大門橋より天城山隧道入口までは自動車通行道路ですが隧道入口より八丁池に至る上り一里二十八丁十四間と下り水生地橋まで一里四丁二十二間は御徒歩に依るの外なき山道でありまして此區域を制服警察官は五箇中隊編成で警部六名警部補十五名巡査部長四十名巡査三百五十一名と外に特別高等課直屬の特設隊百數十名竝に警衛補助員たる消防組幹部員六百六十八名で御警衛に奉仕しました。

天城山御料地は世人約六萬町歩と稱して實に廣大で樹木鬱蒼し山中に生活するもの、千有餘名もあつて從來戶口調査等の完全を期することが甚だ至難な所であります。管內に本年二月末四人殺事件發生し當時犯人と目さるゝ人物は天城山に潛入した模樣があるので管內警察消防組員を總動員して一大捜索を試みた事もありました。故に山中稼人に就ては充分調査濟ではありましたが尙今回の警察の責任よりして更に檢索の要があつたので五月二十三日地元上狩野村及上大見村消防組員を指揮して廣範圍の捜索を爲し引續いて、六月一日卽ち御巡幸前日に消防組員及警察官をして再び檢索を爲し其儘八丁池方面に通ずる道路に消防組員及警察官を配置すると共に關係町村に對しては當日山中に於いて奉拜する事は禁ずる旨を通知致しました、唯前以て山中に生活する者だけは一定の場所を指定して奉拜を許すことを統率者に申渡したのであります。

隧道入口から八丁池經由水生地橋に至る山中の警察官配置に就ては道中目標となるものがなかつたので、場所の指定に困難を感じ數回の踏査に依つて得た距離及分岐點を考慮して已むなく、木札を調製し　是に警第　號の番號を表示して配置後引揚げの際は必ず之を携帶する樣計畫し且分隊毎に引揚場所を指定して同場所は御目觸りにならない所を選定すると共に御下山道路は御登山道路の反對側で然も眼下に映ずる場所が多い爲め御下山道路配置員は御登山と同時に姿を遠慮することに決定しました。

六月二日は前夜來の小雨をものともせずに奉拜者は早朝から各々指定場所に於いて謹嚴な態度でお待ち申し上げて居りました。私は此日天城山の先行を命ぜられて居りました故大隊附の淸水警部補と共に早朝管內を一巡して大隊本部を湯ヶ島駐在所に置き淸水警部補に常時各中隊との連絡をとる事を命じました。隧道入口で御登山の時刻を御待ち申上げましたが何分朝來の降雨殊に天城山八丁池附近は一層の降雨と濃霧に咫尺を辨ずることも出來ないとの趣きであり殊に行幸御日程中にも降雨の際は湯ヶ島小學校までと伺つて居りましたが、愈〻御登山御決行と承り御出發後間もなく隧道入口に着御御輕裝で御登山遊されました。故御登山は如何かと懸念して居りましたので御模樣を時々刻々に電話で拜して居りましたが、御登山は如何かと懸念して居りましたので御模樣を時々刻々陛下は御熱心に粘菌を御採集遊され時々御聲高らかにお附の方々と語られつゝ進まれました。

此の日は雨天であり且つ濃霧が深かつたので御眺望遊ばさるゝ事の出來なかつたのがかへす〴〵も遺憾に存ぜられました。此の間時間は御豫定より二時間近く遲れました。御下山の際　畏くも奉拜指定場所に堵列の炭燒其他の人夫に對して御答禮遊ばされつゝ、水生地橋に御着きになりましたが、昭和聖代の御代なればこそ、天城山中に於て　龍顏を拜する光榮に浴するのであると思はず落涙を催しました。

水生地橋よりは後驅を命ぜられましたが鹵簿は管內を恙なく通御あらせられ洵に重任を果した歡喜が胸一杯に滿ちたのでありました。更に六月三日には沼津驛三島驛間を責任區域として三島驛で本縣下御巡幸最終日の光榮ある御警衛を奉仕

致しました。

今追憶するさへも言ひ知れぬ緊張を感ずるこの重大な御警衛を無事果したことは素より上　御稜威の然らしむる所であることは言ふまでもありませんけれ共亦上司先輩の御指導と警衛員全部が一致協力奉公の誠を致し併せて管内各種團體を初め縣民一般の御援助が擧つて力ありしこと、深く感謝する次第であります。

御警衛の大任を果して

（前三島警察署長）警部　林　辰己

千載一遇とも申すべき　聖上陛下今回の御巡幸を御迎へするに當つての大任に當る事を得ました事は生涯に再び得る事の出來ない光榮の極みであります。

御巡幸御日程の御豫定中我が三島警察署管内に於きましては第六日に天城山行幸の砌り内浦村重須に御上陸遊ばされて内浦村及び川西村が御順路御道筋に當り、又第七日目には三島町に行幸、官幣大社三島神社を始め三島高等女學校、第二第三兩重砲兵聯隊等に御巡幸遊ばさるゝ事を拜しまして其の光榮を悦ぶと共に重大なる御警衛の大任を如何にして恙なく果し得ようかと一方ならず心配致し署員一同協力一致して御警衛準備の爲め萬全を期した次第でありますが、それでも時日の切迫するにつれましてまだ、あれもこれもと物足りぬ感じが致しまして心が焦るばかりでした。人事を盡してからは唯だ神明の加護に俟つより外はないと御内定御發表以來禁酒禁煙をなし朝夕神棚に燈明を獻じてお祈りし又　島大社への參拜を缺かしませんでした。

愈二十八日行幸を仰ぎます日に私は御召列車に扈從して山北驛より靜岡驛迄御警衛申上ぐる大任を命ぜられまして洵に一身の光榮此の上もなく感激に堪えませんでした、御召列車が本縣の地内へ御進行になりますと身神が一層緊張致しまして何とも申す事の出來ぬ心持ちになりました、列車のステップに立つて沿道の奉拜者を視ますと學校生徒、青年團、在鄉軍人會、婦人會等の團體を始め並ぶる人々皆な緊張しきつて感激に滿ちた面持ちで奉拜して居り殊に老人達は各所に合掌して頭を下げ奉拜してゐるものもありました。

私は往年　陛下が皇孫殿下で在らせらるゝ御時熱海の御用邸へ御避寒行啓中御警衛を申上た事があり、又皇太子殿下に在らせらるゝ御時沼津御用邸へ御避寒中も再度御警衛申上げ尚ほ攝政宮殿下として富士裾野に於て行はれたる陸軍特種演習及攻防演習に行啓の砌りにも連日御警衛申上ぐる事を得ましたので御幼年の頃より度々御英姿を拜する光榮に浴しました。御召列車が靜岡驛へ御着になり　陛下が御車より御降車遊ばされてプラットホームに玉歩を運ばせらるゝのを拜しました時は往年御英姿を拜しました當時を思ひ浮べ感泣致しました。

第六日天城山行幸の際の御道筋管内内浦村川西村及第七日行幸の奉拜者を滿足に安全に奉拜得せしめる事が出來ぬ狀態にあるので此の點を非常に憂慮致しました。そこで三島川西内浦の各關係町村長と協議して沿道の田や畑を地主に交渉して借り入れ、豫め附近町村より奉拜に出る人員の豫想數を調査報告してもらいまして、此所は何村、彼所は何町と云ふ風に一般町村民の奉拜場所を指定して、或る場所が込み合つて奉拜が出來なかつたり又或る場所は空いてゐると云ふ樣な事の無い樣一般に安心して滿足に奉拜し得る樣に手配をした次第であります、之は一般奉拜者の便のみならず警察取締上からも大層都合がよい結果を齎らしました。奉拜場所で特に苦心致しましたのは三島大社境内に特別奉拜者及び特種團體員を入場せしむるか否かの決定でありました、大社境内の參道は長い距離を　陛下には御徒歩で御參拜あらせらるゝので御警衛上多大の苦心を致しまして團體員を決定し當日は一々町村役場より參入證を交付して萬全を期した次第であります。

第六日天城山より還幸の時刻が御豫定よりも約二時間も遲れさせ給ふたので川西村内浦村の沿道にお待ちする奉拜者が

「御車に故障でもあるのではなからうか」とか「道路でも悪くなつたではなからうか」と非常に心配の面持ちで話し合つてゐるのを聞きまして皆んな一樣に御安泰をお祈りして居る心持ちに涙ぐましい感が致しました。

第七日三島町行幸は御巡幸最終の日に當らせらるゝので私共御警衛の任に當る者の一層心配した日でありました。御巡幸第六日迄は高き御稜威と縣民の熱誠とに依り少しの御支障もなく過ごす事が出來ましたのに最終の日に於て萬が一にも些の手落ちでもありましては是れ迄縣民の捧げた赤誠の努力を水泡に歸せしむる己而ならず實に取り返へす事の出來ぬ大責任であるので不斷心配致しましたが一般民衆の熱烈忠誠なる心懸けに依りまして奉拜者が悉く秩序よく滿足に奉拜する事が出來ました事は誠に喜びに堪えません。

三島大社に於て　陛下が參道に玉歩を運ばせらるゝ、時特別奉拜者席より熱誠籠めて一齊に湧き起つた萬歳にいと御滿足けの龍顔を拜し奉りまして誠に恐懼感激に堪へなかつた次第であります。

私は大社から女學校、兩聯隊竝に畜牛天覽場と順次御警衛申上けて三島驛に奉送申上げましたが正午御恙がなく御發車になりまして御召列車が見えなくなりました時思はず熱い涙が流れました。

　聖上陛下には還幸後御警衛に從事したる警察官に對し御下賜金竝に御紋章入り御煙草の御下賜の光榮に浴しまして御聖旨の有難きに感泣した次第であります。尙警察署に於ては六月十四日署演武場に於て傳達式を行ひ有難き御沙汰を署員に傳へました署員は感激の涙にくれ此の光榮を一門に分たんと直ちに御下賜の御煙草を一本二本と遠き故鄕の兩親や或は恩師の許に送るべく小包郵便として發送するものがあり、或は御下賜金を以て何か永久紀念となるものを購ひたしと相談するなど歡喜に滿ちた有樣を見ましては誠に愉快の極みで御聖德の無邊なるに唯々感激の外はありません。

　今回の御警衛に於て特筆して感謝の意を表したきは消防組の活動であります、御巡幸の御日程が御發表になりましたので消防聯合會三島支部は直に管內組頭會議を召集し御警衛及び一般警備に就ての計畫を樹て準備に努めました。尙ほ副支部の駐在所派出所勤務の警察官は殆ど行幸地に出張して不在となるので其の間の町村警備は一切を消防組の手に依賴し管內十ヶ町村に三百二十名の警備員を選任し十日間に涉つて晝夜警備の任に當つて戴いた次第であります、又管內へ御巡幸當日御警衛補助員として一千百名の消防組員の出動をお願ひ致しました各組頭及び役員は不眠不休組員を督勵して萬遺憾なきを期し各警備員や補助員は一糸亂れぬ規律の下に非常の緊張味を以て勤務せられ實に平素の規律訓練と消防精神を遺憾なく發揮せられました、此の偉大なる消防組の援助に依つて御警衛上又町村警備の上に聊かの手落もなく萬全を期し得た事は寔に感謝に堪へない次第であります當に於ては此の光榮ある御巡幸の御警衛を記念し且組員に感謝の意を表する爲め記念メタルを調製し感謝狀と共に警備員補助員一千四百二十名に對して贈呈致しました。

　列聖の御代にも、ためしなき今回の地方御巡幸の御盛事に七日間の永き重大なる御警衛中何等の事故なく、且管內町村民が悉く滿足に奉拜し赤誠籠めて御迎へ申上る事の出來た歡喜と光榮とを得て此の大任を全く終了致しました事は偏に上陛下の御稜威と神明の御加護に依る事は申す迄もありませんか、亦關係當局者始め官內各町村長、消防組在鄕軍人分會青年團等の各位の厚き御援助の賜と深く感謝する次第であります。

警衛記錄編纂

本記錄編纂の事は既に行幸頭初より大體之が計畫ありしも警衛事務の繁劇と從事人員の尠なかりし事により其の實施期間中に於て諸般の必要なる材料を蒐集完備し置く餘裕なかりしは最も遺憾とせる所なり。之れ蓋し御警衛の萬全を期して警察官の一人殘らずが晝夜活動し機能の全力を之に傾注せるが故なり。

事幸いにも恙なく完く其の遂行を果し了へたる曉に於て甫めて記錄編纂の準備に入り審議を重ねて茲に具體的成案を確立したり。其の大要は中村警察部長指導の下に町村警務課長編纂事務を統制し各般に亙る詳細なる編纂事務卽ち資料蒐集より取捨・起稿其の他原稿の整理に關しては當時實際此の衝に當り活動したる各係の主任者を以て之に充つることを本領とせり。

於此六月二十三日には編纂委員の任命を見たり卽ち次の如し。

行幸警衛記錄編纂委員

（警　衛　警　備　編）　矢　崎　警　部
（同編中宿舍關係）　高　橋　屬
（豫　算　關　係）　佐　藤　警　部　補
（警　衛　警　備　編）　石　垣　警　部　補
（同編中電話施設）　久　保　田　技　手
（同編中警察官慰問）　本　杉　屬
（特高及犯罪豫防編）　疋　田　警　部

（同　編）　山　下　警　部
（高等警察編）　鈴　木（藤）警　部　補
（保安警察編）　山　內　警　部
（犯罪豫防編）　增　田　警　部　補
（衞生警察編）　鈴　木　衞　生　主　事
（保安警察編中工場關係）　今　野　警　察　技　師
（警衞警備編及其他全部）　沖　本　部　長

猶後日に至り左の如く若干の變更ありたり。

（警　衞　警　備　編）　安　間　警　部
（特高及犯罪豫防編中移動警察）　松　下　警　部　補
（警衞警備編中警衞配置）　岡　谷　警　部　補

右委員任命後記錄編纂の統一を期する爲數回に至りて審議會同を重ね各々其の意見を定め方針を確立して其の下に執筆することゝなせり。

然るに幾何もなく七月八日には町村警務課長宮內事務官に轉じて本縣を去ること、なり續いて八月三十一日には警務課主席矢崎警部が知事官房に轉じて之亦警察部を去るに至り全く警衞事務の中樞に參與せし兩氏を失ひ記錄編纂の前途は困憊の狀態に置かれたり。然れども警衞全局を統制し以て實施に任じたる中村警察部長が常にその歸趨を揭示し之に依りて新任橋爪警務課長が專ら編纂監修に當り完成に努力せり之に依りて一時停滯に歸したる編纂事務は新に光明を得て順調に運ばるゝに至れり。編纂として資料蒐集より起稿而して校正、完成後の配本等に至るまで總ての事務は主として橋爪警務

課長の指揮により沖本部長の擔任する所にして同部長は警務課關係の第一編警衛警備の編纂を爲すと共に亦一面各課より廻付せる全部の原稿を整理する爲殆んど行幸警衛の終了後十餘ヶ月の間警務課山本巡査の補助を得て之に專從せり。

編纂中最も困難を感じたるは寫眞の蒐集にして行幸當時記錄編纂に搭載すべき寫眞の撮影尠く隨つて他より新に之を求めざるべからず。故に行幸御模樣竝警衛に關する寫眞は主として縣社會課に於て撮影したる活動寫眞映畫の約一萬尺に亙るものを借り受け映寫すること數回、中村警察部長、橋爪警務課長立會の下に沖本部長選擇し最も適當と認むる個所の四十數個所を選定せり。然れども之を全部切斷することは許されざるを以て重要なるもの、二十餘個所を原版より得る事とし之を材料として擴大複寫せり。又中村警察部長の所有に係る活動寫眞映畫中より警衛員の召集、及點檢竝淺間神社に參拜の狀況等の數個所を擴大複寫するを得たり。其の他靜岡市役所撮影の原版より複寫せる警衛實況の寫眞竝に各從事者の寫眞の蒐集には苦心一方ならざるものありき。

猶記錄は遲くも十一月下旬までには脫稿の豫定なりし處前に述べたるが如き最も適當なる編纂者卽ち町村、矢崎兩氏の轉任により少なからざる支障を生じ、後沖本部長が編纂主任として之に當ることを命ぜられしも同部長は當時警衛計畫に實際當面せざりし關係上其の豫備知識を得るまでには相當の時日を要し加ふるに偶々十一月二十六日拂曉には伊豆大震災に遭遇して警察機能の全部は之に傾注せられ勢ひ編纂事務は一時中斷の已むなき狀態に置かれたり。

超えて昭和六年の新春を迎へ再び編纂に着手し漸く三月下旬全部脫稿の域に進みたり。

於此印刷上の完全と善美を盡す爲特に沖本部長を東京に出張せしめ優良なる印刷所を選擇するに努めたり。その結果牛込の日清印刷株式會社を選定して之れが印刷製本の全部を依囑することゝなれり。

其の完成の近づくに及びて特に冠頭に　聖上陛下の御眞影を奉揭するに決し沖本部長は宮內省に出頭して町村宮內事務官の盡力により御眞影御貸下の光榮に浴し銀座新井寫眞師に依囑して謹寫せしめたり。

又一木宮內大臣の題字を揭げ卷頭を飾らんとし揮毫を乞ひたるに之に快諾を辱ふせるは深く感謝する次第なり。

茲に各編纂に與りたる諸氏の記述の經路を聊か記すべし。警衛關係は警衛記錄中最も多岐廣汎に亙り、其の大部分は前述の如く橋爪警務課長の指導と沖本部長の執筆に成るも豫算經理の編は佐藤警部補の努力に依る。又警察電話の事項は久保田技手、宿舍關係は高橋屬、警察官の慰問に就いては本杉屬、警衛配置は岡谷警部補のそれ〴〵原稿に依り編輯したるものなり。

特高關係は疋田警部主任として統一を計り山下警部が約二ヶ月に亙り當時の尨大なる計畫或は綿密なる實施を資料として完成を遂げ其の中犯罪豫防殊に移動警察の計畫、實績等の記錄は主として松下警部補の努力によれり。

高等警察關係は鈴木（藤次郎）警部補が獨り之に專從し繁忙なる職務の傍編纂に當りたるものなり。

保安警察の編は小澤保安課長指揮の下に山內警部編纂に當りたるも其の範圍廣汎に亙るが故に各係の主任を以て之が原稿を纏めしめ、卽ち車輛整理及交通關係は八木、大塚兩部長が之に當り銃砲火藥類に關しては專ら長谷川技手が擔當し電氣及瓦斯の取締事項に付ては坂本技師、鈴木（義枝）技手、公安取締に關するものは梶警部補が執筆せり。又消防に就いては望月部長、工場關係は今野技師の手に成れり。衞生關係は綠川衞生課長、鈴木主事等指揮の下に佐々土防疫監吏それを編輯せり。

右何れも各編纂擔當者は事務を離るゝことなく行幸當時の計畫實施に亘る書類簿册等を參考として記憶を辿り一意心之れに從事して完成を遂げたる勞苦は決して少なからざるものなり。

編纂に關する總ての經費は全く行幸警衛當時其の豫算中に編成せざりしかば之が捻出に相當の困難を來したるも經常豫算中より漸く二千數百圓の財源を生み出して三百三十五部の最小限度必要部數を印刷することゝせり。之等は內大臣、宮內大臣、侍從長、侍從武官長、內務大臣を初め宮內省、內務省竝兩省關係者及各廳府縣、縣下各警察署と警衛從事の警部

以上に贈呈して曩古の警衛紀念にする事と爲したり。

敍上の如き經緯を以て警衛記錄は完成するを得たるも其の間編纂上に於て當惑せる事例又は執筆者として苦心せること
も甚だ多かりし事は言を俟たず。今煩を避け委しくは掲げざるも記錄編纂の終るに當り之に關與せられたる數多の諸氏に
深く謝意を表す。

昭和六年三月二十五日印刷
昭和六年三月二十八日發行

〔非賣品〕

靜岡縣警察部編纂

印刷者　東京市牛込區榎町七番地　竹內喜太郎

印刷所　東京市牛込區榎町七番地　日清印刷株式會社

靜岡縣行幸警衛記錄 正誤表

靜岡縣警察部

正誤個所 頁	行	誤	正
一五	(下段) 一一	杉浦峯作	松浦峯作
一七	第三項本文終リ行	迂餘	紆餘
二五	(上段) 一四	(七)其ノ他日本金錢登錄株式會社	(七)其ノ地日本金錢登錄機株式會社
四二	五	敷の物	敷物
一三〇	一〇	イ、官幣中社伊谷宮	イ、官幣中社井伊谷宮
一三八	(上段) 五	警察部長を	警察部長之を
一三九	一〇	警部梶文芳	警部補梶文芳
二二九	(上、下段共)	宗整	完整
三三一	一〇	九名	十名
三四五	三	算定舍	算定宿舍
三六五			

正誤個所 頁	行	誤	正
三六七	二	亂用	濫用
三九四	三	主官	主務官
四〇七	第二節	所要警戒者	要警戒者
五四四	二	規定	規程
五四五	二〇	庖厨	庖厨
五九九	(下段) 一五	屠殺用	屠殺用
五九九	(下段) 一六	屠殺當日	屠殺當日
六〇〇	(上段) 一	屠肉屠殺	屠肉屠殺
六四九	四	發したり	爲したり
七四三	一四	一意心	一意專心